

一般社団法人日本地球惑星科学連合 平成23年度 第3回理事会 資料

開催日時 平成23年10月7日（金）
午後14時00分から午後17時00分

開催場所 東京大学理学部3号館320号室

平成 23 年度第 3 回 理 事 会 次 第

1. 開 会

2. 報 告 事 項

1. 委員会等活動報告

- ・ 広報普及委員会 新 WEB サイト立ち上げ報告
- ・ 地球人間圏科学セクション シンポジウム開催報告
- ・ 環境・災害対応委員会 東日本大震災関連活動報告等
- ・ 国際学術委員会 AOGS2014 年大会について
- ・ キャリア支援委員会 セミナー報告
- ・ その他

2. 日本学術会議報告

- ・ 第 22 期新体制名簿
- ・ 今後の課題

3. 義捐金執行方針

4. 公益認定申請状況

5. その他

3. 審 議 事 項

第 1号議案 選挙関連

第 2号議案 2012年大会準備について

第 3号議案 JpGU商標登録取得について

4. 閉 会

(資 料)

1) 新 WEB サイト	
トップページイメージ	・ P. 5
2) 地球人間圏セクション	
シンポジウムポスター	・ P. 6
3) 環境災害委員会	
活動報告資料	・ 別添
4) キャリア支援委員会	
セミナーポスター	・ P. 7
5) 日本学会会議	
新体制名簿, 今後の課題	・ P. 8
連携会員名簿	・ P. 9
6) 義捐金	
執行方針	・ P. 10
線量計資料	・ P. 11-13
7) 公益認定	
申請スケジュール, 審査経緯報告	・ P. 14-15
8) 選挙関連	
日程表	・ P. 16
立候補者名簿	・ P. 16-18
投票システム画面	・ P. 19-20
今後の運営課題, 選挙管理委員名簿	・ P. 21
公示	・ P. 21-22
9) 大会準備	
今後の予定	・ P. 23
セッション受付状況 (タイトル一覧)	・ P. 23-24
セッション受付状況 (提案数推移)	・ P. 25
2012年大会運営実施案	・ P. 26
会場使用案	・ P. 27
時間割案	・ P. 28
コンビーナガイドライン	・ P. 29-35
大会参加登録料設定	・ P. 35
ジオパークセッションの開催方針	・ P. 36-39
参加費無料セッションの開催希望について	・ P. 40-41
10) 商標登録	
登録の概要と他学会の登録状況	・ P. 42-43
登録についての対応状況と各社からの見積もり	・ P. 44-46

新WEB 立ち上げ 報告

リニューアル 連合トップページイメージ



東日本大震災シンポジウム—地球人間圏学の視点

—東日本大震災の教訓を生かして南海・東南海地震に備えるために—

プログラム 総合司会：春山成子(日本学術会議連携会員 三重大学教授)

- 13:00 シンポジウム開会の挨拶
岡部篤行(日本地球惑星科学連合地球人間圏セクションプレジデント 青山学院大学教授)
13:05 会場校挨拶 関西大学副学長

第1部 東北地方太平洋沖地震と津波、被害の実態を科学的に知る

- 13:10 超巨大海溝型地震・津波対策の再考
河田恵昭(日本学術会議連携会員 関西大学教授)
13:40 東北地方太平洋沖地震に学ぶ超巨大海溝型地震の特徴と今後の地震対策
入倉孝次郎(日本学術会議連携会員 京都大学名誉教授)
14:10 堆積物からみた日本海溝における海溝型巨大地震の履歴
澤井祐紀(独立法人産業技術総合研究所主任研究員)
14:40 巨大南海地震の繰り返し間隔と規模
岡村 真(高知大学教授)
15:10 長期的地震危険度評価の方法・成果と課題
奥村晃史(日本学術会議連携会員 広島大学教授)
15:40 仙台・石巻平野における津波の流動
海津正倫(日本学術会議特任連携会員 奈良大学教授)
16:10~16:20 休憩



第2部 災害を次世代に引き継ぐために—自然と人間とのかかわりを考える—

- 16:20 地域レベルでの防災対応や防災教育は、津波減災にどう役立ったか
宮城豊彦(東北学院大学教授)
16:40 東日本大震災の教訓を生かした地理・防災教育
—「温度差」のある関西の教育現場からの提言—
野間晴雄(日本学術会議連携会員 関西大学教授)
下村勝哉(兵庫県立津名高校主幹教諭) 小泉邦彦(西宮市立上甲子園中学校教諭)
17:00 地理基礎・歴史基礎必修化の提言と地図/GISを活用した防災教育の推進
碓井照子(日本学術会議会員 奈良大学教授)



写真提供：水見山幸夫

第3部 パネルディスカッション

- 17:30~18:10 東日本大震災の教訓を活かすために—南海・東南海地震に備えて—
18:10 閉会の挨拶
水見山幸夫(日本学術会議連携会員 北海道教育大学教授)
18:15 終了



日時：2011年10月9日(日) 13:00~18:15

参加費：無料。事前申し込み不要。多くの方の参加を期待しております。

場所：関西大学 千里山キャンパス(100周年記念会館ホール)
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
阪急電鉄「梅田」駅から千里線「北千里」行で「関大前」駅下車(この間約20分)、
徒歩約5分。または京都「河原町」行で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて
「関大前」駅下車。関大前駅では南口からエスカレーター利用が便利です。

【問い合わせ】

春山成子(三重大学大学院生物資源学研究所) 住所：三重県津市栗真町屋町1577、fax:059-231-9591、haruyama@bio.mie-u.ac.jp
※当日の連絡先は野間晴雄(関西大学文学部) 090-2381-9752(携帯電話)、noma@kansai-u.ac.jpまで

主催 日本地球惑星科学連合 地球人間圏セクション

共催 日本地理学会

後援 日本学術会議 地理学連携機構 人文地理学会 大阪府教育委員会* 兵庫県教育委員会* 奈良県教育委員会* 京都府教育委員会*
和歌山県教育委員会* 徳島県教育委員会* 高知県教育委員会* 阪神淡路大震災関係団体* 関西大学 *は申請中

地球惑星科学人材のための 進路選択・就活セミナー

日時: 9月29日(木) 18:00~20:00

受付17:30~: 参加無料, 事前申込み不要

場所: 東京大学 本郷キャンパス
理学部 3号館 320号室

対象: 地球惑星科学分野の院生、PD、学部生ならどなたでも

■□■セミナー趣旨■□■

地球惑星科学を研究する学生や若手研究者には様々なキャリアパスがあります。本セミナーでは、アカデミアでの活躍や民間での活躍など、地球惑星科学人材の様々な選択肢について考えてゆきます。パネリストが博士課程進学後にアカデミアに進むパスや、民間企業への就職活動の方法論、民間企業で地球惑星科学人材がどのように活躍しているかなど、実体験を交えながらお話しします。今後のキャリアパスを考えるまたとない機会ですので、皆様お誘いあわせの上、ご参加ください!!



■当日の内容■

●「アカデミアでの活躍、博士課程進学の道」

独立行政法人 海洋研究開発機構 博士(理学) 長島 佳菜 氏

●「民間企業での活躍の道」

株式会社 ウェザーニューズ Ph.D. 原山 洋平 氏

●「理学系学生のための就職活動ガイダンス」

株式会社 アカリク 長井 裕樹 氏

●「リバネス研究費紹介」

株式会社リバネス 長谷川 和宏 氏

《主催》

日本地球惑星科学連合
キャリア支援委員会



《お問い合わせ》

株式会社アカリク

TEL: 03-3463-0783

E-mail: info@acaric.co.jp

学術会議新体制について

【 体制 】

会長：大西 隆（第3部，土木工学）

第3部：部長 家 泰弘（東京大学 物性研，物理学），副部長 荒川康彦（東京大学先端研，物性工学），

幹事：土井 美和子（東芝，情報学），巽 和行（名大，化学）

地球惑星科学委員会所属会員：

永原 裕子（委員長） 北里 洋（副委員長）

中島 映至（幹事） 氷見山 幸夫（幹事）

碓井 照子 大久保 修平 川口 淳一郎 安成 哲三 山川 充夫

※連携会員名簿は次頁

【 課題 】

(1) 教育の質保証

中教審に端を発する教育の質保証の実現のため，文科省より，大学教育における博Q照基準剥・関E求められています。言うなれば，大学教育の博w導要領狼fのようなものです。2年後程度を目処に学術会議30分野のまとめを文科省に答申することになる見込みです。

物理や化学と違い，地球惑星科学においては，ここはまったく統一的なコンセンサスはなく，とてつもない課題です。分野の根幹にかかわる問題です。学術会議内でのみ議論したのでは無意味で，コミュニティにおける議論とその実現化の努力が必要です。地球惑星科学委員会においては，このための時限の分科会を設立いたしますが，連合との全面的な連携が必要となります。詳細は追ってご相談させていただきたいと思いますが，心置き いただけますようお願いいたします。

(2) 学術の大型研究計画問題

21期においてはさまざまな混乱をひきおこした大型研究問題ですが，22期においては2年後に大改革がおこなわれます。これにむけ，地球惑星科学として準備が必要です。時限の分科会を作るか，企画分科会において対応するか，これから検討いたします。こちらもコミュニティのサイエンスの方向と，予算獲得にかかわる重大課題であり，連合のご協力をお願いすることになると思いますので，よろしくようお願いいたします。

(3) 大震災関連

サイエンスとしての大震災に関するコミュニティ内の議論，対社会の取り組み，初等中等教育に対する取り組みなど，単に講演会を開催するのではなく，われわれの在り方をさらに議論する必要があるかと思えます。こちらもコミュニティ全体の問題として，一緒に議論をお願いしたいと思います。

【 連携会員名簿 】

	氏名	任期	所属	身分	専門		
1	荒井 章司	6	金沢大理工研究域	教授	岩石学		
2	井田 仁康	6	筑波大人間総合科学	教授			
3	梅津 正倫	6	奈良大学文学部	教授			
4	岡部 篤行	6	青山大学総合文化政策学部	教授	地理空間情報		
5	小口 高	6	東京大学空間情報学研究センター	教授	地理学		
6	川口 淳一郎	6	宇宙航空研究開発機構	教授	惑星探査		
7	鬼頭 昭雄	6	気象庁気象研究所	教授	気象学		
8	小嶋 智	6	岐阜大学工学部	教授			
9	三枝 信子	6	国立環境研陸域モニタリング推進室	室長			
10	斉藤 文紀	6	産総研地質情報研究部	上席研究員			
11	鈴木 康弘	6	名古屋大学	教授			
12	平 朝彦	6	海洋研究開発機構	理事	地質学		
13	田中 和広	6	山口大学理工学部	教授			
14	佃 栄吉	6	産総研総合研究所	副研究統括			
15	中村 尚	6	東京大学先端科学技術研究センター	教授	気象学		
16	中村 正人	6	宇宙研究開発機構	教授・研究総主幹	惑星探査		
17	新野 宏	6	東京大学大気海洋研究所	教授	気象学		
18	西 弘嗣	6	東北大学総合学術博物館	教授			
19	西山 忠男	6	熊本大学自然科学研究科	教授・研究科長	岩石学		
20	平田 直	6	東京大学地震研究所	教授	地震学		
21	福田 洋一	6	京都大学理学研究科	教授			
22	日置 幸介	6	北海道大学理学研究院	教授	固体地球物理		
23	益田 春恵	6	大阪市立大学理学研究科	教授			
24	松井 孝典	6	千葉工業大学惑星探査研究センター	教授	惑星科学		
25	松本 淳	6	首都大学東京都市環境科学研究科	教授	気候学		
26	松本 良	6	東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻	教授	堆積学		
27	森田 喬	6	法政大学デザイン工学部	教授			
28	山中 康裕	6	北海道大学地球環境学研究院	教授	海洋科学		
29	若林 芳樹	6	首都大学東京環境科学研究科	教授			
30	渡部 真人	6	産総研地質情報研究部門	主任研究員			
31	荒井 良雄	3	東京大学大学院総合文化研究科	教授	人文地理学		
32	入倉 孝次郎	3	京都大学名誉教授・愛知工業大学	客員教授	地震学		
33	大久保 泰邦	3	経済産業省産業技術環境局 技術評価室	産業技術総括調査官	資源探査	地球熱学	
34	大谷 栄治	3	東北大学大学院理学研究科	教授	高圧地球物性学	実験鉱物学	実験岩石学
35	奥村 晃史	3	広島大学大学院文学研究科	教授	第四紀学	活断層古地震	
36	蒲生 俊敬	3	東京大学海洋研究所	教授	海洋地球化学		
37	木村 学	3	東京大学大学院理学系研究科	教授	地質学	テクトニクス	
38	熊木 洋太	3	専修大学文学部	教授	地図学	応用地理学	
39	河野 長	3	東京工業大学グローバルエッジ研究院	特任教授	地球電磁気学		
40	佐々木 晶	3	国立天文台電波研究部教授・RISE月探査プロジェクト	プロジェクト長	惑星科学	太陽系探査	
41	佐竹 健治	3	東京大学地震研究所地震予知情報センター	教授	地震学	古地震・津波	
42	佐藤 薫	3	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	教授	気象学	大気力学	
43	柴崎 亮介	3	東京大学空間情報科学研究センター	教授・センター長	空間情報		
44	高橋 栄一	3	東京工業大学大学院理工学研究科	教授	マグマ学	実験岩石学	
45	高橋 桂子	3	海洋研究開発機構地球シミュレーションセンター	グループリーダー			
46	千木良 雅弘	3	京都大学防災研究所	教授	地質学	山地解体過程	
47	津田 敏隆	3	京大大学生存圏研究所	教授	大気科学	環境計測	
48	富樫 茂子	3	産業技術総合研究所		地球惑星化学	火成岩岩石学	

義捐金執行方針

【義捐金総額】 194万577円（6月1日現在 大会期間中 59万577円）

【義捐金執行方針について】

8/4 富樫理事より情報提供

- 放射線計測の専門家に聞いてみました。
もし、中学高校の科学クラブが使用するのであれば
秒単位の時定数である GM 管による空間線量率が計れるもので現在価格の 3-4 万円がよいだろう。
感度の良いガンマ線の空間線量率測定のためシンチレーションカウンターは十万元以上数十万円のオーダーだそうです。
また、半導体を用いた個人被爆量測定が目的の累積線量計は、長時間の測定が必要であり、空間線量率測定には向きません。
なお、現在メーカーが量産体制にはいっており、入手の困難な現在が一番値段が高くなっており、秋から暮れにかけて入手しやすく、価格はかなり下がるであろうことです。

8/2 坂野井キャリア支援委員会副委員長より情報提供

- 線量計（価格と、購入元、納期）について
5月東北大学大学院理学研究科惑星プラズマ・大気研究センターにて購入実績
日立アロカ PDM122：～3万円/ヶ，購入先：東日本電子計測，納期1.5ヶ月
上海精博工貿 JB4020：～5万円/ヶ，購入先：大学生協，即納

8/2 第2回理事会議事録議事録より

- 第6号議案 義捐金執行方針について
畠山理事よりニーズはあるがオファーが少ないという説明があった。
教育問題検討委員会：畠山理事）経由で申し出のあった中学校に40万円程度、理科の器具を送ることが確認された。何を送るかについては畠山理事が調整し決めることになった。
残りのお金で線量計を購入し、配布するなどの案が出された。金額などを調べどこに配布するかなどを今後決めて行くことになった。

6/9 第1回経営企画会議議事録より

- 6月1日現在、義捐金総額194万577円（連合大会期間中の59万577円を含む）。
- 集まった義捐金の執行方針について、どのような形で被災された方へ支援ができるかを検討した結果、学校教育（主に高校、中学の理科教育）への支援に多く同意が得られたので、今後、実態の把握、被災支援の具体的な方策 について、教育問題検討委員会下のチャンネルで調査・模索を依頼する。委員会に依頼するにあたり、追加で必要経費が発生する場合は、財務委員会へご相談してもらう。
- 義捐金を使用するにあたり、経理的な科目は何になるか、会計士に確認しておく。
- その他の意見
理科実験施設の備品の補助、公平性の考慮、緊急性（困っている度）の考慮、高校生セッションに参加していたなど連合と関わりのある高校への支援など。
- 金額的にみて、5校位になってしまうのではないかと

【10/4 宮城県 古川東中学校からのリクエスト一覧】

品名	型番	メーカー	単価	数	金額	備考
冷蔵庫 2 ドア冷蔵庫	MR-F110MB	モリタ	24,800	1	24,800	薬品等保管用
デジタルカメラ	EOS Kiss X5 ボディ	CANON	60,900	1	60,900	顕微鏡撮影・提示用
AC 電源アダプター	ACK-E8	Canon	5,728	1	5,728	顕微鏡撮影・提示用
顕微鏡アダプタ	NY-1S+CANON アタッチメント	(株)美館イメージング	100,000	1	100,000	顕微鏡撮影・提示用
液晶プロジェクター	MP776 ST	BenQ	93,263	1	93,263	視聴覚教材等提示用
電源コード	S-30	ハタヤ	4,260	2	8,520	グループ用電源確保用
荷台小型樹脂製運搬車	MP6039NB	トラス (TRUSCO)	4,070	2	8,140	教室への搬入用
電子レンジ	DR-4215W5	TWINBIRD	5,890	1	5,890	加熱用
ホットプレート	EP-LB10	象印	4,500	1	4,500	
電気ポット	NEO PVV-A220-WL	タイガー	6,000	1	6,000	
ターレット変倍式 実体顕微鏡	EMTR-1P/10/LED-30T	メイジテクノ	119,000	1	119,000	
合計金額					436,741	

※ 顕微鏡と顕微鏡アダプターはメーカー見積依頼中、他は型番や機種の確認中。
窓口齋藤先生との間で了解が取れ次第、購入手配予定。

【購入検討中 線量計】

Buy Geiger Counters

In Stock - As of September 27, 2011, current shipping date is estimated to be 1 business day from the time of order for QTY

1



[View Larger Image](#)
[View Details](#)

PRM-8000
Geiger Counter with Carrying Case

\$495.00 USD



3.5mm to USB Cable
for PC Connectivity

\$29.00 USD

Nuclear Geiger Counter

Specifications

Battery Life¹

Standard 9V Lithium	60,000 Hours / 6.85 Years
Standard 9V Alkaline	28,250 Hours / 3.22 Years (included)

Measurement Front End

Detector	LND 712 Geiger-Muller tube, Halogen-quenched with mica end-window
Radiation Detected	alpha, beta, gamma and x-radiation
Energy Sensitivity	1,000 CPM/mR/hr Calibrated to Cesium-137 (Cs137)
Accuracy	±10% Typical, ±15% Maximum
Measurement Ranges	0.001 to 200 mR/hr 0.01 to 2,000 uSv/hr 1 to 200,000 uR/hr or CPM (1,000 CPM/mR/hr) 0 to 3,333 CPS (16.66 CPS/mR/hr) Total Count: 0 to 4,294,967,295 (32 Bit Integer)
Measurement Statistics	Continuous availability of Elapsed Time, Average, Minimum and Maximum dose rate in either uR/hr, mR/hr, uSv/hr, CPS or CPM Time stamp on new maximum
Timed Measurement	Selectable 1, 5, 10, 20, 30, 60 and 90 minute interval
Dose Rate Alarm	Alarm can be set in mR/hr or uSv/hr to any value within the measurement range

Internal Data Logging

Storage	100,000 Bytes non-volatile memory
Logging Intervals	Every Minute or Every Hour
Maximum Capacity	91,466 Minutes or Hours (90% Normal Background, 10% Full-Scale)
Minimum Capacity	32,656 Minutes or Hours (100% Full-Scale Measurement Levels)
Logging Output Format	Standard Comma Separated Value (CSV) with time stamp and CPM Data (1,000 CPM/mR/hr)

User Interface

Languages Supported	English and Japanese
Display	Two-Line, 14 character transfective LCD with back light for low light conditions
Keypad	Weather resistant commercial-grade membrane keypad
Visual Indicator	LED pulses on and off when a radiation detection event occurs. LED can be disabled.
Audio Indicator	Tone beeps when a radiation detection event occurs. Audio three volume levels and can be muted.



[Click to Enlarge](#)

PRM-8000
Nuclear Radiation Monitor



NIST-Traceable
Calibration Available
From Independent Lab

[\(See Sample Report\)](#)

Input / Output

Audio Output / Digital Interface	Standard 3.5mm jack with three selectable volume levels for output to audio systems, computer speakers or media player headphones. Jack can also be provisioned by the user for pulse output or as a USB Interface for logging data by PC or transferring internal data logging memory (requires optional cable)
External Power	9 VDC at a minimum current rating of 100mA

Environmental / Physical

Temperature Range	-20° to 51° C (-4° to 125° F)
Size	143 x 83 x 35 mm (5.63" x 3.25" x 1.37")
Weight	198 grams (7 oz.) including battery
Compliance	CE, Lead-Free Independently tested and found to be substantially compliant with FCC requirements for home use. Approval to display FCC logo pending.

Notes:

1. Assuming that background radiation is less than 25 CPM, the device is using the low-power setting and temperature of operation is 25° C (77° F).

All specifications are subject to change without notice.

公益認定申請状況

申請書提出 8/12

【今後のスケジュール概要】

1. 申請書の審査（～9月第2週メド） 9/21 完了連絡
↓
2. 常勤委員会議
↓
3. 委員会諮問
↓
4. 委員会答申（12月第2週を目標）
↓
5. 認定処分

【8/22 担当者からの申請受理メール】（内閣府公益認定等委員会事務局 松浦）

8月12日付申請いただいた公益認定申請につきまして、小職が担当をさせていただくこととなりました。

今後何かとお世話になろうかと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

先程お話しさせていただいたとおり、今後のスケジュール概要についてご連絡申し上げます。

申請を受けてから認定処分までの標準処理期間を4か月としておりますので、委員会答申につきまして12月第2週を当面の目標とさせていただきました。

ただし、審査や委員会の結果次第では若干前後させていただくこともありますのでご承知置き下さい。

また「5. 認定処分」につきましては、貴法人の意向に沿う形で進めて参りたいと思えます。

出来る限り速やかな処分をとのことでしたので、その意向に沿う形で審査の方進めて参りたいと思えます。

今後、もし処分の希望日等発生致しましたらお手数をお掛けしますが、小職までご一報いただければ幸甚と存じます。

申請書の審査以降のスケジュールについては、審査が終了した段階でまたご連絡させていただきたいと思えます。

【9/21 公益認定申請に係る審査結果（確認事項連絡）】

■別表2（公益）[1]

「1-3. 地球惑星科学関連の一般公開セミナーの展開」の記載の中で、「一般公開セミナー」は「連合大会」期間中（「一般公開プログラム」とそれ以外の時期に随時開催されるものの2つに分類されるとありますが、随時開催されるものについての記載が23年度事業計画にありませんが、どの程度開催を予定していますでしょうか。また、参加費の有無・金額等はどのようになっていますでしょうか。

■別表2（公益）[1]

「3. 地球惑星科学コミュニティの意見集約と国および社会一般への諸要請への対応」について、過去にどのような提言を行い、どのように公益の増進に繋がったのか、事例等はございますでしょうか。

■別表2（公益）[1]

「5. 地球惑星科学知見の社会還元」について、過去にどのような提言を行ったか、事例等はございますでしょうか。

■別表C(1) 1 公益目的保有財産

2「什器備品」の期末時点の帳簿価額が0円となるのは減価償却が終了したためという理解でよろしいでしょうか。

■別表G

次の科目について、それぞれ経費の内容と積算内訳をご教示下さい。

①臨時雇用賃金、②会議費、③印刷製本費、④賃借料、⑤設営費、⑥支払手数料、⑦支払賛助金、⑧委託費

■別表G

基本財産（500万円）の運用益はどこに計上されているのでしょうか。

雑収益として法人会計に10,000円を計上されておりますが、基本財産の運用益はこの雑収益に該当するのでしょうか。

■報酬基準

社員総会が別に定める役員等の報酬規程について送付下さい

■その他

代議員制について、設立時当初の社員52名は代議員ではなく、正会員であり、その後平成21年12月14日に定款を一部改正し、代議員制を設け、定款に定める代議員の選出方法に基づき代議員選挙を行い、現在に至ると解してよろしいでしょうか。

2011年選挙実施状況報告

日程確認、承認

【代議員選挙日程】

公示	2011年 8月 3日 (水)
立候補等受付開始	2011年 8月15日 (月)
立候補等受付締切	2011年 9月15日 (木)
投票開始	2011年 9月29日 (木)
投票締切	2011年10月28日 (金)
開票、結果報告	2011年11月 4日 (金)

【セクションプレジデント選挙日程 (案)】

公示	2011年11月 4日 (金)
候補者受付開始	2011年11月 7日 (月)
候補者受付締切	2011年11月18日 (金)
投票開始	2011年11月28日 (月)
投票締切	2011年12月19日 (月)
開票、結果報告	2011年12月22日 (木)

代議員選挙 候補者受付状況 (セクション別 ID 順) 選挙管理委員会 9/26 (月) 13:00 にて正式承認

【宇宙惑星科学】 (定員15)

1	佐々木 晶	国立天文台
2	渡邊 誠一郎	名古屋大学
3	中村 昭子	神戸大学
4	長妻 努	独立行政法人 情報通信研究機構
5	大村 善治	京都大学生存圏研究所
6	中村 正人	宇宙科学研究所
7	小嶋 浩嗣	京都大学生存圏研究所
8	高橋 幸弘	北海道大学
9	田近 英一	東京大学
10	込本 尚義	北海道大学 理学研究院 自然史科学
11	藤本 正樹	JAXA 宇宙科学研究所
12	渡部 潤一	自然科学研究機構 国立天文台
13	藤井 良一	名古屋大学
14	永原 裕子	東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻
15	中本 泰史	東京工業大学
16	海老原 充	首都大学東京

【大会海洋・環境科学】 (定員18)

1	角皆 潤	北海道大学大学院理学研究院
2	村山 泰啓	(独)情報通信研究機構
3	吉田 尚弘	東京工業大学
4	蒲生 俊敬	東京大学大気海洋研究所
5	北 和之	茨城大学理学部
6	津田 敏隆	京都大学生存圏研究所
7	多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科

8	佐藤 薫	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
9	近藤 豊	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
10	日比谷 紀之	東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻
11	原田 尚美	独立行政法人海洋研究開発機構
12	嶋田 純	熊本大学大学院自然科学研究科
13	大手 信人	東京大学大学院農学研究科
14	杉田 倫明	筑波大学大学院生命環境科学研究科地球環境科学専攻
15	知北 和久	北海道大学大学院理学研究院
16	鈴木 啓助	信州大学
17	花輪 公雄	東北大学大学院理学研究科
18	田中 博	筑波大学計算科学研究センター
19	中島 映至	東京大学大気海洋研究所
20	沖 理子	宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙利用ミッション本部地球観測研究センター (EORC)
21	河宮 未知生	(独) 海洋研究開発機構
22	山敷 庸亮	京都大学防災研究所
23	立川 康人	京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
24	真木 雅之	防災科学技術研究所
25	池田 元美	北海道大学

【地球人間圏科学】 (定員 13)

1	奥村 晃史	広島大学大学院文学研究科
2	鈴木 毅彦	首都大学東京都市環境学部
3	佐竹 健治	東京大学 地震研究所
4	須貝 俊彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻
5	小口 高	東京大学・空間情報科学研究センター
6	小口 千明	埼玉大学地圏科学研究センター
7	松本 淳	首都大学東京
8	海津 正倫	奈良大学
9	渡部 芳夫	独立行政法人 産業技術総合研究所
10	島津 弘	立正大学
11	安成 哲三	名古屋大学地球水循環研究センター
12	坂本 正徳	国学院大学 人間開発学部
13	氷見山 幸夫	北海道教育大学
14	春山 成子	三重大学大学院生物資源学研究科
15	碓井 照子	奈良大学 文学部 地理学科
16	荒井 良雄	東京大学大学院総合文化研究科

【固体地球科学】 (定員 29)

1	谷岡 勇市郎	北海道大学大学院理学研究科地震火山研究観測センター
2	古屋 正人	北海道大学
3	中田 節也	東京大学地震研究所
4	松澤 暢	東北大学大学院理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター
5	田部井 隆雄	高知大学
6	入船 徹男	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター
7	藤井 敏嗣	特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構
8	大坪 俊通	一橋大学
9	田中 愛幸	東京大学
10	吾妻 崇	産総研 活断層・地震研究センター
11	山崎 俊嗣	産業技術総合研究所 地質情報研究部門
12	宮下 純夫	新潟大学

13	古村 孝志	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター／東京大学地震研究所
14	鍵 裕之	東京大学
15	竹村 恵二	京都大学 (理学研究科附属地球熱学研究施設)
16	歌田 久司	東京大学地震研究所
17	大谷 栄治	東北大学理学研究科地学専攻
18	深畑 幸俊	京都大学
19	石渡 明	東北大学東北アジア研究センター
20	加藤 照之	東京大学地震研究所
21	木村 学	東京大学大学院理学系研究科
22	川勝 均	東京大学地震研究所
23	浜野 洋三	独立行政法人海洋研究開発機構
24	金嶋 聰	九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門
25	公文 富士夫	信州大学理学部物質循環学科
26	鈴木 勝彦	海洋研究開発機構
27	ウォリス サイモン	名古屋大学
28	宮崎 一博	産業技術総合研究所
29	成瀬 元	千葉大学大学院理学研究科 (10月1日より京都大学大学院理学研究科)
30	岩森 光	東京工業大学
31	西村 裕一	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター

【地球生命科学】 (定員 9)

1	掛川 武	東北大学大学院
2	井龍 康文	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻地球惑星科学科
3	川幡 穂高	東京大学 大気海洋研究所
4	西 弘嗣	東北大学総合学術博物館
5	高橋 嘉夫	広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻
6	北村 晃寿	静岡大学理学部地球科学科
7	小林 憲正	横浜国立大学
8	大河内 直彦	海洋研究開発機構
9	北里 洋	独立行政法人海洋研究開発機構
10	遠藤 一佳	東京大学
11	真鍋 真	国立科学博物館
12	山岸 明彦	東京薬科大学

【地球惑星科学総合】 (定員 12)

1	中川 貴司	海洋研究開発機構
2	瀧上 豊	関東学園大学
3	熊谷 英憲	独) 海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域
4	芝川 明義	大阪府立花園高等学校
5	山本 高司	川崎地質株式会社
6	佐野 有司	東京大学 大気海洋研究所
7	宮嶋 敏	埼玉県立深谷第一高等学校
8	古宇田 亮一	独立行政法人 産業技術総合研究所
9	阿部 國廣	無し
10	畠山 正恒	聖光学院中学高等学校
11	矢島 道子	地質情報整備・活用機構
12	横山 広美	東京大学大学院理学系研究科

代議員選挙投票（9/29-10/28）【投票システム画面】

日本地球惑星科学連合

日本地球惑星科学連合ログイン画面

— 一般社団法人日本地球惑星科学連合会員登録のお勧め —

- この画面から一般社団法人日本地球惑星科学連合会員登録新規登録を行うことができます。
- 一般社団法人日本地球惑星科学連合の活動にご賛同いただき会員登録を行っていただくようお願いいたします。
- 会員は年会費(2,000円、大学院生は1,000円、学部生、高校生以下は無料)の支払が必要ですが、大会参加登録についても会員料金が適用されます。
- また会員になりますと、大会各種サービス、地球惑星科学研究に関する様々な情報サービスが受けられます。

— 大会会員登録 —

- 一般社団法人日本地球惑星科学連合会員以外の方が、Webシステムを利用して連合大会のセッション提案、予稿原稿投稿、参加登録等を行っていただくためには、大会会員登録が必要です。
- 大会会員登録が完了すると、「ID」及び「パスワード」が発行されます。
- IDとパスワードは、本システムのログインおよび各種登録、更新に必要ですので必ずお控え下さい。
- 一度大会会員を登録いただくと、そのIDでWebシステムにログインして今後の大会で各種登録、更新等を行うことができます。

連合会員未登録の方

新規会員登録申込の方はこのボタンをクリックして下さい。

会員登録

操作マニュアルはこちら

連合会員登録・大会会員登録がお済みの方 (登録ID・パスワードをお持ちの方)

代議員選挙のご投票は、こちらからログインしてください。

登録ID:

パスワード:

ログイン

ID・パスワードご不明の方はこちら ID・パスワード問い合わせ

連合会員以外の方

「非会員として大会に参加・投稿される方」はこのボタンをクリックして下さい(新規の連合会員としての参加も可能です。その場合は、左上の会員登録ボタンをクリックして下さい)。

非会員(大会会員)登録

操作マニュアルはこちら

日本地球惑星科学連合

日本地球惑星科学連合Webシステムメニュー

処理メニュー画面です。
処理を選択してください。

ログイン情報

ID	
氏名	
E-mailアドレス	
所属機関正式名称	日本地球惑星科学連合
種別・決済状況	正会員 一般
登録区分	地球人間圏科学
主たるセッション	地球人間圏科学

代議員選挙投票

選挙投票

候補者名簿

選挙投票状況

操作マニュアル

システムメニュー

セッション提案

会員情報確認・更新

登録区分・セッション変更

プライバシーポリシー

パスワード更新

ID登録情報検索

会員 操作マニュアル

会員種別変更

決済状況確認

ログイン画面
投票期間中
赤文字で表示

ログイン後画面
投票前
「選挙投票」
「候補者名簿」
ボタン表示

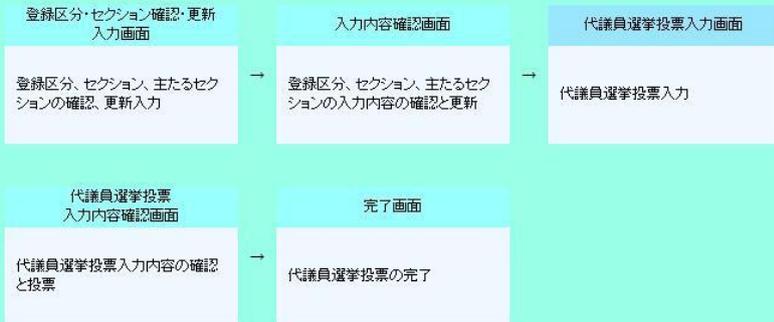
↓

「選挙投票」
を選択すると
登録区分確認・
変更画面へ進む

日本地球惑星科学連合

代議員選挙投票入力

- ・立候補者一覧から投票する立候補者を選択して投票欄にチェックして、「入力内容確認ボタン」をクリックして下さい。
- ・投票できる立候補者は6名以内です。1名も選択せずに投票を行った場合は、白紙投票となります。
- ・4名以下の立候補者に投票(白紙投票を含む)した場合でも、追加投票、再投票をすることができません。



ログイン情報

ID	004453
氏名	Tanigami Mihoko
E-mailアドレス	tanigami@jogu.org
所属機関正式名称	Japan Geoscience Union
種別・決済状況	正会員 一般
登録区分	地球惑星科学総合
主たるセクション	大気海洋・環境科学

代議員選挙立候補者一覧(地球惑星科学総合)

投票	立候補者		推薦人	
	氏名	所属	氏名	所属
<input type="checkbox"/>	000744 青山 雄一	国立極地研究所		
<input type="checkbox"/>	000778 荒井 章司	金沢大学理工研究域自然システム学系	001353 石川 晃	東大・駒場
<input type="checkbox"/>	000788 荒木 徹	中国極地研究所	001363 藤野 清志	愛媛大・GRC
<input type="checkbox"/>	000845 荒木 博志	国立天文台 RISE月探査プロジェクト	001469 竹本 修三	JEIN基礎科研
<input type="checkbox"/>	000897 井川 猛	ジオタンサ、地下構造研究調査事務所		
<input type="checkbox"/>	000875 井口 正人	京都大学防災研究所火山活動研究センター		

投票を中止する 入力内容確認

日本地球惑星科学連合事務局
Japan Geoscience Union Secretariat
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階
E-mail : reg@jogu.org Fax : 03-6914-2088

登録区分の
確認・変更
終了後の画面
「投票画面」

5名以内の選択
4名以下、白票
でも、追加、再
投票は不可

↓
入力確認
投票完了へ

代議員選挙投票

選挙投票状況 操作マニュアル

システムメニュー

セッション提案

会員情報確認・更新 パスワード更新 会員種別変更
登録区分・セクション変更 ID登録情報検索 決済状況確認
プライバシーポリシー 会員 操作マニュアル

投票後は、

「選挙投票」
「候補者名簿」
ボタン表示がな
くなる

選挙運営での問題点

- 【規則関係】 補欠選挙についての規則がない
【システム関係】 無投票を想定していない → 今回、改修依頼
補欠選挙について想定していない

2011 年度 選挙管理委員会

委員長	坪本 裕之	首都大学東京
	市原 美恵	東京大学地震研究所
	篠原 雅尚	東京大学地震研究所
	砂村 倫成	東京大学
	高木 征弘	東京大学
	橘 省吾	東京大学
オブザーバー	大村 善治	京都大学

公 示

一般社団法人日本地球惑星科学連合 代議員選挙について

日本地球惑星科学連合の個人会員（正会員）より選ばれた代議員（社員）の方々はセクションプレジデントならびに理事の被選挙者となるとともに、団体（学協会）会員とともに、定時・臨時社員総会において、役員の選出、事業計画の承認、その他の連合の運営に関わる諸事項についての決議を行なうこととなります。会員の皆様の意志に基づいて連合を運営するためにも、積極的な代議員への立候補ならびに投票をお願い致します。

具体的な選挙方法は、以下の代議員選挙実施要領のとおりです。立候補される方ならびに候補者を推薦される方はお間違いのない様、期日までに代議員立候補届出書あるいは代議員推薦届出書をご提出下さる様、お願い致します。なお、選挙の詳細につきましては、添付の代議員選挙規則および代議員選挙細則をあわせて御覧下さい。

2011 年 8 月 3 日

一般社団法人日本地球惑星科学連合

選挙管理委員会

委員長 坪本裕之

委員 市原美恵、篠原雅尚、砂村倫成、高木征弘、橘 省吾

代議員選挙実施要領

1. 選挙者

代議員の選挙者は、代議員選挙の投票締切日（10月28日）までに、一般社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「本法人」といいます。）に登録をされた個人会員（正会員）の方であり、この方々は、全員、ご自分が所属する登録区分における候補者のなかから、5名（あるいはそれより少ない人数）の候補者を選んで、投票することができます。

2. 被選挙者

立候補受付開始日の前日（8月14日）までに本法人の個人会員（正会員）となった方は、どなたでも立候補により、または推薦により、代議員の候補者となることができます。

3. 任期

今回の選挙で選ばれる代議員の任期は、来年の4月から2年間となります。

4. 立候補等について

代議員候補者となる方法は、自薦、選挙権を有する1名以上の正会員による推薦（ただし、被推薦者の承諾が必要）の2つがあります。立候補者は、所定の立候補届出書を、推薦者は、所定の推薦届出書を、立候補等受付期間内に、選挙管理委員会に届けることになります。

5. 立候補等の届出

立候補または推薦届出書は、以下に示す所定のフォーム（ホームページからダウンロード可能）を使用し、立候補等受付締切日（9月15日）までに届くよう、日本地球惑星科学連合、選挙管理委員会（〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階）に郵送、または持参して下さい。

6. 選出数

代議員の定数は、80名以上200名以内であり、代議員選挙公示日の前日（8月2日）における団体（学協会）会員の数の2倍となります。また各登録区分において選挙で選出する代議員の数は、上記の代議員定数のうち、5名ずつ（合計30名）を各登録区分に配分した後、残りの人数を、選挙公示日の前日（8月2日17:00）における各登録区分に所属する個人会員（正会員）の数によって比例配分した数となります。

今回の各登録区分において選挙で選出する代議員の数は、以下の通りです。

宇宙惑星	15名	
大気海洋・環境	18名	
地球人間圏	13名	
固体地球	29名	
地球生命	9名	
地球惑星総合	12名	合計96名

7. 選挙日程

代議員選挙公示	2011年 8月 3日（水）
代議員選挙立候補等受付開始	2011年 8月 15日（月）
代議員選挙立候補等受付締切	2011年 9月 15日（木）
代議員選挙投票開始	2011年 9月 29日（木）
代議員選挙投票締切	2011年 10月 28日（金）
代議員選挙開票、結果報告	2011年 11月 4日（金）

8. 投票方法

投票は、ホームページ上で行ないませんが、代議員選挙の投票締切日（10月28日）までに会員登録をされた個人会員（正会員）の方は全員、ご自分が所属する登録区分の候補者のなかから、5名（あるいはそれより少ない人数）を選んで、投票することができます。

代議員選挙投票状況一覧表 2011年10月7日(金)10:34 現在

登録区分	定数	立候補者数	会員数	投票済会員数	未投票会員数	投票率
宇宙惑星科学	15	16	1,140	37	1,103	3.20%
大気海洋・環境科学	18	25	1,552	81	1,471	5.20%
地球人間圏科学	13	16	932	27	905	2.90%
固体地球科学	29	31	2,929	105	2,824	3.60%
地球生命科学	9	12	482	39	443	8.10%
地球惑星科学総合	12	12	811	-	-	-
計	96	112	7,846	289	6,746	4.10%

2012 年連合大会準備状況

期間:2012 年 5 月 20 日(日)～25 日(金) 会場:幕張メッセ国際会議場

【今後の予定】

大会 HP 公開	: 2011 年 9 月 1 日(木)
セッション提案募集	: 2011 年 9 月 1 日(木)～10 月 21 日(金) ※最大延長 10 月 25 日(火)
セッションコメント	: 2011 年 10 月 31 日(月)～11 月 7 日(月) 【プログラム委員会】
プログラム編成会議	: 2011 年 11 月中旬 ※コンピーナとの調整
セッション ID 確定	: 2011 年 11 月 21 日(月)
セッション修正, 詳細入力	: 2011 年 11 月 30 日(水)～12 月 20 日(火)
開催セッション公開	: 2011 年 12 月 21 日(水)
展示企画出展者募集	: 2011 年 11 月 1 日(火)～定員になり次第終了
予稿原稿投稿募集	: 2012 年 1 月 11 日(水)～2 月 3 日(金) 24:00 >>早期締切 ～2 月 17 日(金) 12:00 >>最終締切 ※最大延長 2 月 20 日(月)まで可
コマ割検討	: 2012 年 2 月下旬
コマ割確定	: 2012 年 3 月 13 日(火)
コマ割公開	: 2012 年 3 月 16 日(金)
プログラム編集	: 2012 年 3 月 16 日(金)～3 月 25 日(日)
プログラム編成終了	: 2012 年 3 月 28 日(水)
プログラム公開	: 2012 年 4 月上旬
予稿 PDF 公開	: 2012 年 5 月上旬
大会参加登録	: 2012 年 1 月 11 日(水)～5 月 7 日(月) 17:00

2012 年大会セッション受付数 (10 月 7 日現在, 33 件)

セッションカテゴリー		代表コンピーナ	タイトル	開催希望
宇宙惑星科学	7 件	梅田 隆行	宇宙プラズマ理論・シミュレーション	
宇宙惑星科学		木村 淳	惑星科学	
宇宙惑星科学		片岡 龍峰	太陽高エネルギー粒子被ばく予測モデルの研究開発	
宇宙惑星科学		徳丸 宗利	太陽圏・惑星間空間	
宇宙惑星科学		藪田ひかる	隕石解剖学:太陽系物質の総合的理解に向けて	
宇宙惑星科学		海老原 祐輔	Space Weather	国際
宇宙惑星科学		海老原 祐輔	宇宙天気	
固体地球科学	16 件	高橋 太	地磁気・古地磁気・岩石磁気	
固体地球科学		梅田 浩司	放射性廃棄物処分と地球科学	
固体地球科学		林 能成	地震予知	
固体地球科学		鈴木 晴彦	強震動・地震災害	
固体地球科学		角替 敏昭	岩石・鉱物・資源	
固体地球科学		多田 訓子	電気伝導度・地殻活動電磁気学	
固体地球科学		廣瀬 仁	スロー地震	
		中原 恒	地震波伝播:理論と応用	
		下田 玄	固体地球化学・惑星化学	
		関口 渉次	ひずみ集中帯の構造とアクティブテクトニクス	

		乾 睦子	変形岩・変成岩とテクトニクス	
		奥寺 浩樹	鉱物の物理化学	
		中川 貴司	地球深部ダイナミクス:プレート・マントル・核の相互作用	
		田上 高広	地球年代学・年代層序学	
		三ヶ田 均	物理探査のフロンティア	
		奥地 拓生	水素系物質と中性子の地球惑星科学	
大気海洋・環境科学	3件	祖父江 真一	新たな宇宙からの地球観測ミッションの創出	パブリック
大気海洋・環境科学		安原 正也	同位体水文学 2012	
大気海洋・環境科学		安原 正也	都市域の地下水・環境地質	
地球人間圏科学	2件	春山 成子	グローバルランドプロジェクト	国際
地球人間圏科学		藤野 滋弘	堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報	
地球生命科学	1件	北里 洋	石灰化作用と地球化学からみた地球生命代替指標	国際
教育・アウトリーチ	1件	矢島 道子	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	
領域外・複数領域	3件	有川 正俊	地球惑星科学における地図・空間表現	
領域外・複数領域		源 泰拓	柿岡の地磁気観測百年ー地球物理学に果たす役割ー	
領域外・複数領域		柴田 英昭	生物地球化学	

セッション受付状況

2012 年大会					2011 年大会						
日付		受付/累計	対応内容		日付	受付/累計	割合	対応内容			
9/1	木	1	1	大会 HP, セッション提案 OPEN	9/1	水	5	5	3%	提案サイト公開 2010 年大会コンビナー, 学協会呼びかけ 2010 大会国際セッション コンビナー呼びかけ	
2	金	0	1		2	木	2	7	4%		
3	土	0	1		3	金	1	8	5%		
4	日	0	1		4	土	0	8	5%		
5	月	0	1		5	日	0	8	5%		
8	木	1	3		8	水	0	9	5%		
9	金	5	8	2011 年コンビナー, セッション提案者, 海外参加者へ提案依頼	9	木	1	10	6%		メールニュース 9 月号 セッション提案 募集開始のご案内
10	土	0	8		10	金	0	10	6%		
11	日	1	9		11	土	0	10	6%		
12	月	3	12	メールニュース 9 月号 セッション提案開始のご案内	12	日	0	10	6%	EGU, AOGS への JpGU 国際セッションについて広報依頼 団体会員以外の関連学協会への個別メール, セクション代表へ国際セッション開催協力依頼, 前回大会参加・投稿者 外国人へ個別メール プレジデント・バイスプレジデント・国際学術委員・幹事へ国際セッション協力依頼	
13	火	1	13		13	月	3	13	7%		
14	水	0	13		14	火	1	14	8%		
15	木	1	14		15	水	0	14	8%		
16	金	2	16	2011 年海外コンビナーへ個別メール	16	木	1	15	8%		
17	土	0	16		17	金	0	15	8%		
18	日	0	16		18	土	0	15	8%		
19	月	0	16		19	日	0	15	8%		
20	火	1	17		20	月	0	15	8%		
26	月	0	17		26	日	1	16	9%		
27	火	0	17		27	月	2	18	10%		
28	水	0	17	AOGS コンビナーへ案内メール	28	火	1	19	11%		
29	木	0	17		29	水	1	20	11%		
30	金	3	20	メールニュース臨時号	30	木					
10/1	土	0	20	EGU コンビナーへ案内メール	10/1	金	2	22	12%		
2	日	1	21								
3	月	6	27								
4	火	0	27		4	月	1	23	13%		
5	水	3	30	2011 コンビナーへ個別メール							
6	木	3	33		6	水	3	26	15%	2010 年大会コンビナーへ個別メール	
					7	木	5	31	18%		
					8	金	5	36	20%		
					11	月	3	39	22%		
					12	火	7	46	26%	メールニュース 10 月号 セッション提案 募集中!	
					13	水	4	50	28%		
					14	木	2	52	29%		
					15	金	3	55	31%		
					16	土	2	57	32%		
					17	日	3	60	34%		
					18	月	3	63	36%		
					19	火	8	71	40%		
					20	水	7	78	44%		
****	締切	21 日 (金)	****		21	木	4	82	46%		
					22	金	12	94	53%	メールニュース臨時号 セッション提案 間もなく締切!	
					23	土	9	103	58%		
					24	日	4	107	60%		
					25	月	26	133	75%		
					26	火	21	154	87%		
					締切後						
					26	火	8	162	92%		
					27	水	5	167	94%		
					28	木	4	171	97%		
					31	日	1	172	97%		
				それ以降 (緊急セッション含む)			5	177	100%		
				合計			177	100%	最終 174 セッション開催		

2012 年大会の講演実施案概要

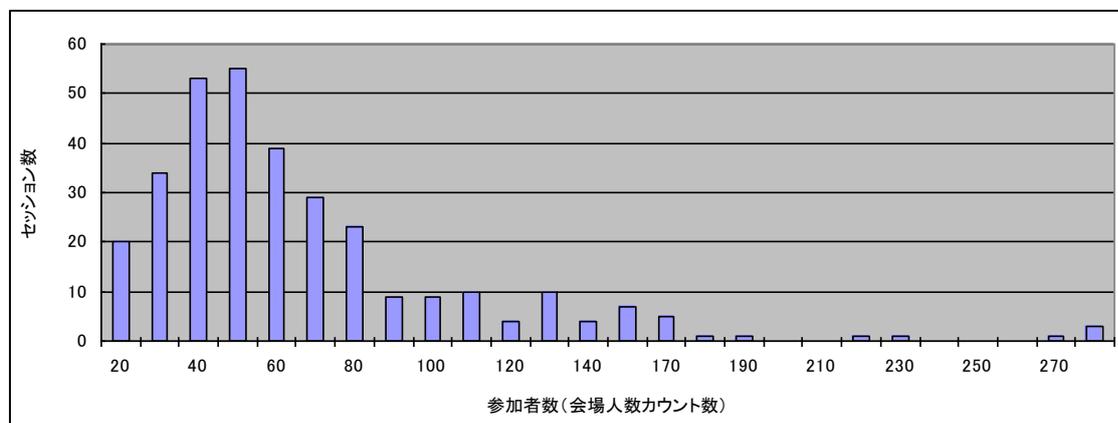
ポスター講演を質量ともに充実させる。

それによって口頭講演の質向上を図り、もって連合大会全体のより一層の充実を目指す。

	2012 年大会	2011 年大会
セッション時間 *時間割案参照	9:00-17:00(目標) 全講演数に応じて若干の変更は有り	8:30-18:30
講演時間	変更なし (口頭:15分)	15分
招待講演	一定数+講演数に応じて追加 ポスター専用の枠を用意する (例:一律口頭2講演(国際は口頭5講演)+ポスター1講演, プラス投稿数の15%程度までは追加可能)	一律3講演(国際は6講演) 口頭とポスターのどちらかに割り振ってもよい
時間配分ルール	事前に告知することでコンビーナの理解と協力を求める ポスター講演の割合を高くする	
講演会場数 *会場使用状況参照	会場の分割と小会場も利用することで18会場とする	15会場
ポスター講演	すべてのポスター講演に3分間の口頭発表をつける	ポスター掲示のみ, ポスター概要説明はコンビーナが発表枠を買い取って実施
ポスターコアタイム *時間割案参照	コアタイムを複数設定し, 口頭セッションと重ならない時間帯も用意する	口頭発表の裏で実施
ポスター講演の割合	口頭:ポスターを基本 1:1 にする (そのために口頭希望→ポスターの移動もある程度は発生する)	口頭希望は極力口頭で発表させる

会場について

(参考:2011 年大会会場使用状況)



※グラフ左から、「参加者が 20 人だったのが 20 セッション」「参加者が 30 人だったのが 35 セッション」..

2012年大会 会場使用案

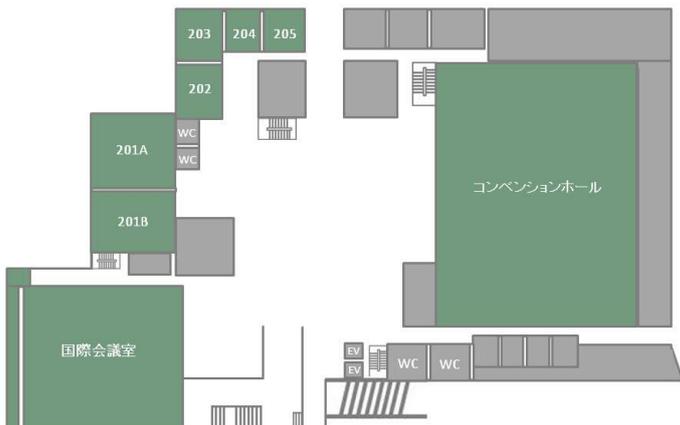
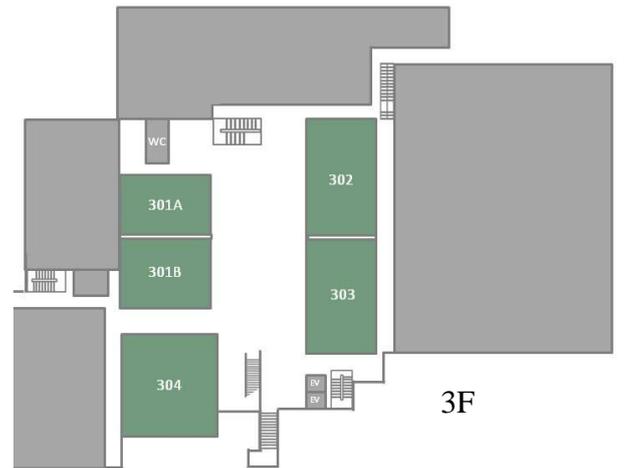
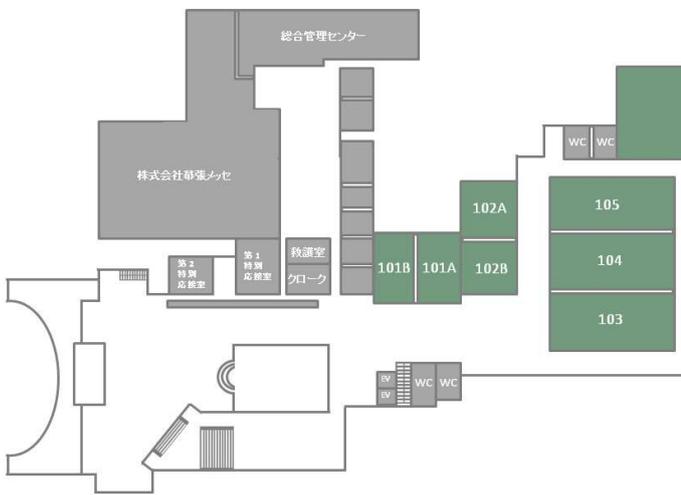
2012年使用 予定会場

会場	定員
101A	70
101B	70
102A	70
102B	70
103	160
104	160
105	160
多目的スペース	100(暫定)
IC	300
201A	140
201B	140
202	70
203	50
301A	110
301B	130
302	200
303	200
304	160
合計	18会場

2011年使用会場

会場	定員
101	140
102	140
103	160
104	160
105	160
IC	300
201A	140
201B	140
202	70
203*	50
301A	110
301B	130
302	200
303	200
304	160
合計	15会場

*使用実績7セッション9コマ



2F

3F

2012大会時間割案

	2010大会	2011大会		案A		案A 最終日		案B		案B 最終日		案C		案C 最終日		案D		案D 最終日		案E		案E 最終日		会場数			
会場数		15		18(最大)		18(最大)		18(最大)		18(最大)		18(最大)		18(最大)		18(最大)		18(最大)		18(最大)		18(最大)		会場数			
		口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター	口頭	ポスター				
8:30 -		1																						8:30 -			
8:45 -		2																							8:45 -		
9:00 -	1	3		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	9:00 -		
9:15 -	2	4		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2	9:15 -		
9:30 -	3	5		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3	9:30 -		
9:45 -	4	6		4		4		4		4		4		4		4		4		4		4		4	9:45 -		
10:00 -	5	7		5		5		5		5		5		5		5		5		5		5		5	10:00 -		
10:15 -	6	8		6		6		6		6		6		6		6		6		6		6		6	10:15 -		
10:30 -																									10:30 -		
10:45 -	1	1	コア1	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	10:45 -		
11:00 -	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		11:00 -	
11:15 -	3	3		3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	3	コア1	11:15 -	
11:30 -	4	4		4	4	コア1	4	コア1	11:30 -																		
11:45 -	5	5		5	5	コア1	5	コア1	11:45 -																		
12:00 -	6	6		6	6	コア1	6	コア1	12:00 -																		
12:15 -	7	7		7	7	コア1	7	コア1	12:15 -																		
12:30 -		8																								12:30 -	
12:45 -																										12:45 -	
13:00 -																										13:00 -	
13:15 -																										13:15 -	
13:30 -																										13:30 -	
13:45 -	1			1				1				1														13:45 -	
14:00 -	2		コア2	2				2				2								1						14:00 -	
14:15 -	3	1		3	コア2		3	コア2	3	コア2		3	コア2		3	コア2		3	コア2	2						14:15 -	
14:30 -	4	2		4	4	コア2		4	コア2		4	コア2		4	コア2		4	コア2	3							14:30 -	
14:45 -	5	3		5	5	コア2		5	コア2		5	コア2		5	コア2		5	コア2	4	コア2	1					14:45 -	
15:00 -	6	4		6	6	コア2		6	コア2		6	コア2		6	コア2		6	コア2	5	コア2	2					15:00 -	
15:15 -		5					1		1				1				1		1		3						15:15 -
15:30 -	1	6			1		2		2		1		2		1		2		2		4						15:30 -
15:45 -	2	7		2		3		3		2		3		2		3		3		5						15:45 -	
16:00 -	3	8		3		4		4		3		4		3		4		4		6						16:00 -	
16:15 -	4		コア3	4		5		5		4		5		4		5		5		7						16:15 -	
16:30 -	5	1		5	コア3		6	コア3	5	コア3		6	コア3		5	コア3		6	コア3	3						16:30 -	
16:45 -	6	2		6	6	コア3		7	コア3		6	コア3		7	コア3		7	コア3	4	コア3	1					16:45 -	
17:00 -		3																		5							17:00 -
17:15 -		4																		6							17:15 -
17:30 -		5																		7							17:30 -
17:45 -		6																		7							17:45 -
18:00 -	ポスター	7																								18:00 -	
18:15 -		8																								18:15 -	
18:30 -																										18:30 -	
18:45 -																										18:45 -	
19:00 -																										19:00 -	
ポスター		注: 実際には、次のよ		各セッションが、コンペーナ判断		同左	ポスター																				
総スロット数		2880		2502		2592		2700		2898		3024		3024		3024		3024		3024		3024		3024	総スロット数		
会場数		15		18		18		18		18		18		18		18		18		18		18		18	会場数		

コンビーナによるセッション運営に関するガイドライン

2011年9月16日版 (ver. 3.4.0)

(注：この版は、2011年9月中旬時点での暫定版です。現在議論中の箇所がいくつかあり、10月上旬に確定させる予定の最終版では、内容や数字が変更となる可能性があります。)

この文書は、2012年連合大会におけるセッション提案のために、コンビーナの方々にセッション運営に関するガイドラインを示すものです。本文書の内容は、2011年大会向けのものとは変わっているところがありますので、ご注意ください。

目次

1. セッションの構成
2. セッション提案から採択まで
3. 投稿のよびかけ・招待講演
4. プログラム編成
5. プログラム確定後、大会当日まで
6. よくある質問(FAQ)

1：セッションの構成

(学術セッション)

日本地球惑星科学連合大会は、多数の学術セッションの集合として開催されます。個々の学術セッションはコンビーナによって提案されたスコープを持ち、コンビーナによって編成された学術発表により成り立ちます。

(セッションの公用語)

各セッションの公用語には、日本語または英語を選ぶことができます。公用語に英語を選んだセッションは、日本地球惑星科学連合国際シンポジウム (JpGU International Symposium) セッション (以下国際セッションと略す) と呼ばれます。

国際セッションに対しては、招待講演数や口頭講演数などの優遇措置があります。

(セッションのカテゴリー)

個々の学術セッションは、対象や内容によって以下の7つのカテゴリーのどれかに属します。(各カテゴリーには、[]内に記したセッション大記号が付されます。)

- ・宇宙惑星科学 [P] (惑星科学, 太陽地球系科学, 宇宙空間物理学, 宇宙電磁気学, 太陽系外惑星科学など)
- ・大気海洋・環境科学 [A] (大気科学, 気象学, 大気環境, 海洋科学, 水文学, 陸水学, 地下水学, 雪氷学, 地球環境科学・気候変動研究など)
- ・地球人間圏科学 [H] (地理学, 地形学, 応用地質学, 環境地質学, 堆積学, 自然災害, 防災, 資源・エネルギーなど)
- ・固体地球科学 [S] (測地学, 地震学, 固体地球電磁気学, 地球内部科学, 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス, 地質学, 第四紀学, 鉱床・資源地質学, 岩石・鉱物学, 火山学, 地球化学など)
- ・地球生命科学 [B] (地球生命科学, 宇宙生物学・生命起源, 地圏生物圏相互作用, 古生物学, 古生態学など)
- ・教育・アウトリーチ [G] (地学教育, 学校教育, 社会対応)
- ・領域外・複数領域 [M] (上記6つのカテゴリーに属さない, または複数のカテゴリーを横断する内容のセッション, 加盟外学協会との合同シンポジウムなど)

(特別なセッション)

以下の2種類の、特別なセッションがあります。

- ・パブリックセッション [O]：アウトリーチ活動や一般の方々にも地球惑星科学の成果を広くお知らせするために設定されるセッションです。パブリックセッションは投稿料および参加費が無料になります。
- ・ユニオンセッション [U]：地球惑星科学のフロンティアや地球惑星科学のコミュニティー全体に共通する課題を全研究者に広く周知し、議論するためのセッションです。

これらの特別なセッションは、提案された学術セッションの中からプログラム編成会議がもっともふさわしいものを選んで、提案したコンビーナに特別なセッションとしての開催を依頼します。これらのセッションでは招待講演者数に上限がなく、講演時間や討議時間の設定も自由です。

2：セッション提案から採択まで (セッション提案)

9月から10月にかけて日本地球惑星科学連合大会 Web システムにてセッション提案を受け付けます。

(代表コンビーナ)

個人、学協会、または研究グループ等の団体によるセッション提案が可能ですが、個々のセッション提案につき、必ず1名の代表コンビーナを指定してください。

代表コンビーナは日本地球惑星科学連合の登録IDが必要です。あらかじめIDを取得しておいてください。

代表コンビーナに加えて共同コンビーナを登録することができます。IDを登録した共同コンビーナは代表コンビーナと同様にプログラム編成作業ができます。代表コンビーナと共同コンビーナをあわせて、コンビーナと呼びます。

(提案区分)

全てのセッションは、まず、7つのセッションカテゴリーのいずれかの学術セッションとして提案してください。適切なカテゴリーが見つからない等、不明の点は、連合事務局に質問してください。

パブリックセッション、ユニオンセッション、国際セッションとしての開催を希望する場合には、提案時にその旨、指定してください。

(EGU, AOGSとの共催について)

国際セッションを提案され、さらにそのセッションをEGUまたはAOGSとの共催とされることを希望される（あるいは決まっている）場合は、セッション提案の中にその旨記述してください。共催を希望されており、かつその交渉を連合に依頼したい場合は、別途、国際学術委員長（teru@eri.u-tokyo.ac.jp）宛にその旨ご連絡ください。

(セッション小記号)

セッションカテゴリーにつけられた大記号に加えて、各カテゴリー内の類似分野のセッションを小記号に分類します。分類はプログラム編成会議で行いますが、希望があればセッション提案時に特記・希望事項として入力してください。

(開催日時・会場希望)

連合大会 Web システムでは部屋サイズ、開催日時についての希望を受け付けます。但し、大会の会場・会期は限られていますので必ずしも希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

(セッションの採択)

個々のセッションの採択、およびユニオンセッションとパブリックセッションの選定は、プログラム編成会議で決定します。セッション内容とセッションカテゴリー・小記号分類の不一致があるとプログラム編成会議が判断した場合、希望していたカテゴリー以外での採択、異なる小記号分類などの条件が課される場合があります。

また、以下に当てはまるとプログラム編成会議が判断する場合、当該セッションを不採択とすることがあります。

- ・日本地球惑星科学連合大会の趣旨から外れるもの
- ・他のセッションと科学的内容が同一あるいはほぼ同じと考えられるもの
(科学的内容がほぼ同じセッションが複数あった場合、協議して一つにまとめます)
- ・内容が科学的見地から不適切、あるいは特定の個人・団体等の誹謗中傷あるいは利益誘導など社会倫理的に不適切と判断されるもの

セッション採否の結果は、11月末にお知らせする予定です。

3：投稿のよびかけ・招待講演

(投稿の呼びかけ)

採択が決定した段階で、各セッションのコンビーナから関連する研究者への積極的な宣伝をお願いします。予稿投稿期間は1月から2月の予定です。但し、各セッションの開催日時や口頭講演割当数などはプログラム編成時まで決定しませんので、特定の日時や口頭講演を確約しての宣伝は避けてください。

(投稿者への通知)

講演論文の予稿投稿にあたり、投稿者（筆頭著者あるいは発表者）が連合大会 Web システムにて会員登録（連合会員あるいは大会参加会員（連合非会員））するように助言をお願いします。投稿者（筆頭著者あるいは発表者）は会員登録が必須です。

(講演形態)

連合大会には、次の2種類の講演形態があります。

(1) 口頭 15 分発表（質疑込み）：通称「口頭講演」

(2) 口頭 3 分発表（質疑なし）＋ポスター展示：通称「ポスター講演」

「ポスター講演」の場合には発表者本人の意思により、口頭 3 分発表を辞退してポスター展示のみとすることができます。一方、コンビーナは発表者に対し、口頭 3 分発表の辞退を要請することはできません。ご留意ください。

2012 年大会では、従来のポスター発表に全て 3 分間の口頭発表が付くことになりました。その他、大会全体を通してポスター講演の充実を図ります。投稿者およびコンビーナの皆さまにはポスター講演を有効にご活用いただき、もって連合大会全体のより一層のレベル向上につなげていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

(招待講演)

コンビーナはセッションごとに招待講演を依頼することができます。招待講演の講演形態は、「口頭講演」もしくは「ポスター講演」（上述）のいずれかです。

招待講演数には制限があります。次の通りです。

[一般セッション]

一般投稿開始前：

自由枠（講演形態は「口頭講演」か「ポスター講演」のいずれかを選択）：2 件

ポスター枠（講演形態は「ポスター講演」に限定）：1 件

投稿締め切り後：

採択された口頭講演数に応じ、招待講演(自由枠)数を追加することができます。ただし、最終的な招待講演(自由枠)数は、そのセッションの全「口頭講演」数（招待講演（自由枠）の「口頭講演」数を含む）の 6 分の 1 を超えないものとします。

[国際セッション]

一般投稿開始前の配分数は、次の通りです。

自由枠：5 件

ポスター枠：1 件

投稿締め切り後の追加分の算出方法は、一般セッションと同じです。

[パブリックセッション、ユニオンセッション]

招待講演数に上限を設けません。

なお、これらのセッションにおける招待講演の投稿方法は通常の方法と同じであり、投稿料や参加費の優遇措置はありません（パブリックセッションをのぞく）。

注：上記の招待講演上限数は、2011 年 9 月中旬時点での暫定案です。9 月下旬までの議論において、変更となることがあります。

一般投稿開始前に配分される招待講演枠に対しては、できるだけ一般投稿開始前に招待講演者を確定して

ください。一般投稿時には、そのセッションの招待講演者が誰かがわかるように公開します。

4：プログラム編成 (時間割作成)

3月に、連合大会全体の時間割作成作業を行います。プログラム委員会が全体を考慮して時間割案を作成し全コンビーナに提示しますので、確認してください。

実際の時間割作成作業では、投稿数に応じて「口頭講演」コマ数を配分し、重複を避けたいセッションや連続開催を希望するセッション、希望の部屋の大きさなどを考慮して各セッションの口頭講演開催日・時間帯等を決めます。しかし、会場数や利用可能時間が限られていますので、必ずしもご希望通りにはならないことがあります。予めご了承ください。各セッションのポスターコアタイムは、口頭講演の開催日・時間帯が確定後、複数の時間帯の中から各コンビーナに選んでいただく予定です。

口頭発表コマ数の配分は、当該セッションに申し込まれた講演数に基づいて行います。2011年大会の場合は、次のようなルールで第一次配分を行い、その後、コンビーナからの意見や要望に基づいて調整を行いました。

[2011年大会の口頭発表コマ数配分ルール]

- ・1コマ8講演を基本単位とする
- ・ユニオンは個別に設定
- ・国際セッションは口頭希望を完全に満たすように配分
- ・一般セッション：
口頭希望数が基本単位の整数倍より1つまたは2つ多い場合は切り捨て
口頭希望数が3つ多い、かつ「どちらでも」がない場合も切り捨て

2012年大会の口頭発表時間配分ルールは、次のようなものとする予定です。

[2012年大会の口頭発表時間配分ルール] (2011年9月案)

- ・1スロット = 15分とする
- ・1コマは、6ないし7スロットで構成する
- ・1日には午前・午後2コマずつ、計4コマ配置する(原則)
- ・ユニオン/パブリックセッションの時間配分は個別に設定する
- ・国際セッションは、口頭講演希望を完全に満たすように配分する
- ・一般セッション：
 S_o = 「口頭講演」希望数, S_p = 「ポスター講演」希望数
基準スロット数 = $\min((S_o + S_p) * C, S_o + S_p * 0.2)$, 小数点以下は切り上げ
 $C = 0.5 - 0.6$ 程度の係数

この基準スロット数を基準とし、時間割の組み合わせに応じて若干の増減を加え、配分コマ数が整数ないし半整数(程度)となるように、配分スロット数と配分コマ数を決める。

ただし、実際の投稿数や会場の都合により、2012年3月の段階でこの配分ルールが変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。

(プログラム編成)

3月に連合大会 Web システムにてプログラム編成作業を行います。編成作業は、(代表および共同)コンビーナが責任をもって行って下さい。万が一、編成作業の時期にコンビーナが誰も作業できないときには事務局にご相談ください。

連合大会 Web システムでは2人以上の同時アクセスをチェックできません。2人以上で編集作業を行う場合には連絡を取り合い、混乱が生じないように注意して下さい。

(論文の採択)

コンビーナは、投稿された論文の内容を精査して下さい。以下のように、連合大会における学術発表として不適切と判断される場合には、論文を不採択として下さい。

採択が疑われる論文については、プログラム委員会にご相談ください。トラブルを避けるため、投稿者に直接連絡することはおやめください。

投稿規定による不採択の基準は以下のとおりです：

- ・内容がセッションの趣旨から外れるもの
(他に適切なセッションがあればコンビナー間の協議により移動できます)
- ・科学的内容が不適切、あるいは発表論文として体裁が整っていないと判断されるもの
- ・個人や組織の誹謗中傷など、社会倫理的に、内容が不適切と判断されるもの
- ・発表の場を確保するなどの目的で、同一人物が同一セッションに規定(下記)以上の複数投稿を行った
り、他人名義(ダミー)など虚偽を含む投稿がなされたと判断される場合

同一セッションに対する筆頭著者あるいは発表者としての申し込みは、「口頭講演」1件、「ポスター講演」1件の計2件まで**可能とします。ただし**、学生が筆頭著者である論文に対して指導教員が代理で投稿あるいは発表すること等には制限を設けません。しかし、同一セッションで同一人が何件も「口頭講演」を行うことは発表機会の公平性の観点から好ましくありませんので、**この場合、3件目以降の講演は「ポスター講演」でのみ可とします**。また、これまで、口頭発表枠の確保などの目的で「ダミー」論文投稿が行われたり、講演者の同意なしに代理投稿が行われるなど、大会参加者の善意に基づいて成り立つ地球惑星連合大会の精神に反する行為が行われた事例があります。このような行為、およびこのような投稿の採択は絶対におやめください。このような行為が確認された場合には、当該セッションの採択を取り消すことがあります。

論文の採択・不採択についての最終決定はプログラム編成会議にて行い、投稿論文を不採択とする場合は、投稿者に対して、プログラム委員会から理由を付して通知します。この場合、投稿料は返却します。なお、投稿者が不採択を不服とする場合には、プログラム委員会に対して再審査を申し立てることができます。

(講演形態の決定)

コンビナーは内容にもとづいて、投稿された各論文には「口頭講演」・「ポスター講演」のどちらの講演形態が適当かを判断し、各論文の講演形態を決定してください。投稿時に示された「口頭講演」・「ポスター講演」の区別はあくまで投稿者の希望です。コンビナーの裁量により、投稿者の当初希望とは異なる講演形態に変更することができます。

「ポスター講演」の口頭発表は、3分です。質疑は行いません。「ポスター講演」の口頭3分発表は、発表者本人の希望にもとづく場合でない限り、なくすことはできません。

「口頭講演」は、一講演あたり15分(質疑込み)です。自由形式のプログラム編成、パネルディスカッション等の開催は認められません。招待講演(の口頭講演)に限って一講演の時間を15分以上に設定することが可能です。ポスター枠の招待講演の口頭3分講演は、3分以上にすることはできません。

会場数の制限から口頭発表可能数には限りがあります。投稿者の「口頭講演」希望を全て満たすことは容易ではなく、ある程度の数の投稿者の希望に添えないことがあることを、あらかじめご了解ください。

(特別な対応を要するセッションに関する取り扱い)

政府要人など警備を必要とする人物の招待講演では、警備や控え室確保などに準備が必要となる場合があります。招待を検討される場合は、必ず事前に地球惑星科学連合大会運営委員会に相談してください。また、このセッションの実施においては、大会運営委員会の調整に従ってください。招待者への対応は原則としてセッションのコンビナーが責任をもって行い、特別対応に伴う諸費用(控え室使用料など)もコンビナー側が負担してください。招待講演以外の場合にも、特別対応が必要な場合には同様とします。

(講演の順序)

講演の順序など、投稿者からの希望がある場合には、コンビナーの判断で対応してください。

「ポスター講演」の3分講演は、できるだけ5つまとめて15分単位にしてください(連合大会全体の進行が15分ごとに同期されるように)。半端の分は、休憩時間に入る前の枠に配置するとよいでしょう。また、3分講演が10以上も続くと落ち着かないと感じる人もいますので、適宜離して配置するのがよいかも知れません。

(他セッションへの移動)

コンビナーの判断により、投稿論文を他の適当なセッションで採択することができます。この場合、各セッションの時間枠を再調整することは難しいので、時間枠の余裕の有無を含めて、移動先のセッションのコンビナーとの事前協議をお願いします。また、セッションの移動は、事前に投稿者の了承を得てから行って下さい。

(座長の選定)

一つのセッションに複数の座長を選定してください。(口頭発表(「口頭講演」「ポスター講演」双方の)が全くないセッションは不要です。)座長には、連合大会に確実に参加する人を選定してください。座長への依頼や確認は、コンビーナが行ってください。

(セッションの確定と承認)

全てのセッションプログラムは、プログラム編成会議での検討を経た後に確定され、最終的に理事会の了承を受けて実施されます。セッションプログラムの構成等に対して、大会運営委員会が協議を求めることがあります。

5：プログラム確定後、大会当日まで

(発表論文タイトル・発表者・著者名の変更)

投稿締め切り日以降、論文の発表タイトル、発表者および著者は、原則として変更できません。

(講演のキャンセル)

発表者からのキャンセルの申し出について、やむを得ないとコンビーナが判断する場合には、指定されたフォームによりプログラム局に必要事項をお知らせください。

6：よくある問合せQ&A

問い合わせの多い項目についてQ&Aにまとめました。参考にしてください。

・国際セッションについて

Q：国際セッションとは何でしょうか。

A：公用語が英語のセッションです。セッション提案時に英語を公用語として選び、さらに、「国際セッションを希望する」を選択してください。国際セッションに対しては、招待講演者数や「口頭講演」数などの優遇措置があります。

・招待講演について

Q：招待講演の投稿受付は通常の講演と同じでしょうか。

A：通常と同じです。

Q：招待講演でも投稿料金は同じですか。

A：同じです。投稿料・参加料への優遇措置はありません。(ただしパブリックセッションは例外)

Q：一人が投稿できる論文数に制限はありますか。(招待講演はカウントされない等)

A：あります。

同一セッションには「口頭講演」1件、「ポスター講演」1件の合計2件まで投稿できます。

同一人が、複数のセッションに複数の投稿をおこなうことに制限はありません。

招待講演も通常の投稿論文と同様にカウントされます。

Q：招待講演と通常講演の見分け方はありますか。

A：招待講演(ポスター枠を含む)には、プログラムの演題番号前に「★」印をつけて印刷・表示を行い、区別できるようにします。招待講演のポスターにも、招待講演とわかる表示をします。

・講演時間について

Q：個々の口頭発表の時間を数分短くすることで口頭講演数を増やしてよいですか。

A：認められません。招待講演以外の「口頭講演」は、一律15分とします。これは口頭講演の質を下げないためであり、同時進行のセッション間での聴衆の移動を円滑にするためでもあります。ご理解ください。

Q：セッションのはじめに趣旨説明の時間を設定してよいですか？

A：認められません。貴重な口頭講演の時間を削ることは望ましくないのでセッション開始前の時間に短く

行うか、コンビナーの講演を最初に行うなどして対応してください。

Q：総合討論の時間を設けたいのですが？

A：パブリックセッションとユニオンセッション以外では、そのような時間を割り当てることは原則としてできません。どうしても必要な場合は、次の2つの方法のいずれかをご利用ください。

(1) コンビナーによる「口頭講演」申し込み：コンビナーの方が、総合討論用の「口頭講演」講演を申し込んでください。1セッションにつき1講演分(15分)のみ、採択することができるものとします。なお、この講演申し込みについても通常の投稿手続きが必要であり、投稿料がかかります。投稿数制限には、カウントしないことにします。最終的な採択は、プログラム編成会議が行います。

(2) 「会合」の利用：時間外（通常の講演が行われていない時間）に同じ会場もしくは別室を別途有料で使用するによって、開催することが可能です。事務局にご相談ください。

・その他

Q：セッション日程はいつ頃決まりますか。

A：3月中旬に決まる予定です。

投稿締め切り後、プログラム委員会にてコマ割を行います。コンビナーの皆様へは3月上旬に第1版をお知らせし、確認をお願いする予定です。その後、各セッションからの修正要望をもとに調整し、最終決定します。

Q：英語版 web システムで、発表原稿（アブストラクト）の投稿は可能ですか。

A：可能です。

英語ログインページ：https://secure.jtbcom.co.jp/jpgu_e/

Q：ユニオンセッションの投稿受付は通常のセッションと同じでしょうか。

A：同じです。投稿料・参加料への優遇措置はありません。

Q：講演会場の設備機器には何がありますか。

A：プロジェクター1台が標準装備です。OHPについては、使用希望の事前連絡が必要です。パソコンの装備はありません。また、ポスター会場内では機器の使用はできません。

2012年大会参加料金設定

種別		事前参加登録料 2011年5月7日(月)まで		当日参加登録料 2011年5月20日(日) より5月26日(金)まで	
		全日程	一日券	全日程	一日券
一般	連合会員	¥ 11,000	¥ 6,000	¥ 13,000	¥ 7,000
	非会員 (大会会員)	¥ 18,000	¥ 12,000	¥ 20,000	¥ 13,000
小中高教員(注1)	連合会員	¥ 5,500	¥ 3,000	¥ 7,000	¥ 4,000
	非会員 (大会会員)	¥ 11,500	¥ 8,000	¥ 13,000	¥ 10,000
大学院生・研究 生(注2)	連合会員	¥ 5,500	¥ 3,000	¥ 7,000	¥ 4,000
	非会員 (大会会員)	¥ 11,500	¥ 8,000	¥ 13,000	¥ 10,000

ジオパークセッションの開催方法について

ジオパーク関連セッション(2011 年実績)

O-22 ジオパーク (オーラル:12, ポスター:30)

O-23 日本ジオパーク委員会公開審査 (オーラル:7)

セッションカテゴリ	パブリック
開催日	月曜日
参加費・投稿費	無料
参加者数	約 160 名
運営状況	渡辺真人先生が人員を手配し、ジオパークセッションに参加する方の受付は専用のカウンタを用意した

※検討事項

	渡辺先生の見解(9月末時点)	検討事項
投稿料	投稿料は払っていただくことにする	パブリックで投稿料を支払うシステムをどうするか？ また、徴収してよいのか？
開催日	(パブリックとして開催日に問題があるなら) 日曜日の開催にできるよう働きかける	パブリックを平日に開催してよいのか？
パブリックでの開催について	ジオパーク、公開審査のどちらもパブリックセッションとしての開催を希望する →行政関係者、一般の方は登録費無料で参加してもらいたい	公開審査は公共性があるのでパブリックでよいが、ジオパークにパブリックの意味合いはあるのか？

2011. 2. 10

パブリックセッション「ジオパーク」「日本ジオパーク委員会公開審査」に関して

渡辺真人 (両セッションコンビーナ)

今回のセッションの目的と意義

- ・ 地球惑星科学コミュニティがジオパークを通じて地域社会に貢献していることをアピールする
- ・ 一般市民 (今回は特に地方自治体関係者) にジオパークセッションへの参加を機に地球惑星科学への関心を高めてもらう
- ・ 日本ジオパーク委員会の審査の一部を公開することにより、ジオパークに関心のある市民・自治体関係者のジオパークの理念への理解を深めてもらう

今回のセッションの内容

「ジオパーク」セッションでは、連合の他のセッションと同じように発表申し込みを受け付け、41

件の発表が集まった。午前をこのセッションに当てる。ジオパークにおける研究教育活動、ジオガイド養成、ジオパークと火山防災などに関する口頭発表、各ジオパーク及び候補地における教育・普及、地形・地質遺産の観光への活用など各種活動報告のポスター発表が予定されている。進行・運営は通常セッションと全く同じである。発表者はジオパークの学術・教育担当者が中心で、ジオパークの運営に携わっている行政関係者も発表する。

午後行う「日本ジオパーク委員会公開審査」では、審査を受ける8ヶ所（現時点での予定）がプレゼンテーションと質疑応答を行う。審査を受ける地域は既に日本ジオパーク委員会で把握しており、講演者と日本語講演要旨を、連合事務局が用意する website を通じて提出することとなっている。講演者の多くが行政担当者であり学会発表の形式に不慣れなこと、メ切を遅らせることによってより多くの地域に申請が見込めることを考慮し特別扱いをお願いした。ジオパークの地球科学的な意義、教育・普及活動や観光と地域振興への活用の実態などについて10分間のプレゼンテーションを行い、10分間委員による質疑を受け、聴衆からも質問を受け付ける。

これまでの経緯

ジオパークは、2008年に本格的な活動が始まって以降、地球科学の普及、防災、地域振興に大きな成果を上げつつある（添付資料参照）。2007年連合大会におけるパブリックセッション「ジオパーク」に集まった研究者・行政関係者が現在のジオパークの発展の中心的な人材となっている。その後2009年、2010年にもパブリックセッションとしてジオパークセッションが行われ、2010年にはセッションの一部として、日本ジオパーク委員会の公開審査が初めて行われた（同委員会の位置づけと審査の仕組みは添付資料参照）。2010年のジオパークセッションは200人の部屋が満席、通路も立ち見でいっぱいとなり、公開審査の時間帯は部屋に入れない人が出る盛況であった。2007年には朝日新聞科学面に、2009年には日経サイエンス誌にジオパークセッションの様子が記事となった。また毎回発表した地域の地域紙に、ジオパークセッションに関する記事が多数掲載されている。

ジオパークセッションの運営

昨年は一度に多くの地方自治体関係者が一般受付に殺到し参加者管理に支障を来すなど、様々な不都合があった。今年は、日本ジオパークネットワークから受付担当の人を出してもらい、連合事務局と協議の上ジオパークセッション専用受付を開設して混乱を回避したい。また、日本ジオパークネットワークとして、パンフレットデスクデスクの出展を考えている。

当日の運営、例えばジオパークセッション参加者への案内やプレス対応等は、連合事務局と連携を取りながら、日本ジオパーク委員会事務局である産総研と日本ジオパークネットワークで行う。

月曜日に開催する理由

現在のジオパークのコミュニティは、地球科学とその周辺分野の研究者、地方自治体行政官、教育関係者、地域住民から成っている。昨年のセッション参加者は研究者・教育関係者と自治体関係者が多かった。自治体関係者から休日よりも平日の方が仕事として参加しやすいとの意見があったこと、研究・教育関係者と一部の自治体関係者からは日曜日の教育・アウトリーチ系のセッションと重ならないようにしてほしいとの意見があったことから、今年は月曜開催をお願いしたい。

今後の開催方法について

現在は、自治体、研究機関、学会などがジオパークの活動にかかわる人とお金を支えている状況である。2007年以降、今回までの地球惑星連合大会のセッションは、連合によるジオパークへの支援としてジオパークに関わる自治体から高く評価され、感謝されている。日本のジオパークコミュニティの中心となる団体、日本ジオパークネットワークは年度内にNPO法人格取得見込みであり、会費と各種収益事業で経済的に自立する見込みである。来年以降ジオパークのセッションをどのような形で

続けていくか、同ネットワークと連合にとって無理のない形を両者で協議できればよいと考えている。

【資料：ジオパークの現状とこれまでの動き】

ジオパークとは

ジオパークは地球活動の遺産を見どころとする公園で、ユネスコが支援する世界ジオパークネットワークが核となって推進している。

<http://www.unesco.org/new/en/natural-sciences/environment/earth-sciences/geoparks/>

日本では、日本ジオパークネットワークと、その審査機関である日本ジオパーク委員会が活動の中心である。世界ジオパークネットワークに加盟を認められた地域を世界ジオパークと言い、25ヶ国77ヶ所の世界ジオパークがある（日本には4ヶ所）。各国で審査する国レベルのジオパークもあり、日本ジオパークは世界ジオパークの4ヶ所を含めて14ヶ所ある。

ジオパークでは、地域にある地形、地層、岩石などを公園として整備し（ジオサイト）、教育と観光に活用する。ジオパークになった地域では、地元住民が地元の地形・地質の成り立ちを学ぶ学習会、ジオサイトを活用した児童の教育が盛んに行われている。また、地元ガイドがジオサイトを案内するジオツアーが盛んになっており、ジオサイトをめぐる定期観光バスを運行して盛況となっている地域もある。ジオパークにある自然系博物館の入場者数が伸びている例も多い。

こうした活動を学術面から支えるために、自治体による若い地球科学者の採用も進んでいる。例えば、島原市では火山専門職員という形で、鳥取県と兵庫県では県立博物館の学芸員の増員という形で、学位を持った若手地球科学者を職員として新たに採用した。

ジオパークは防災体制にも役立っている。霧島噴火に関して、火山噴火予知連絡会会長は記者会見で、「環霧島会議の連絡協議会で、周辺の自治体がジオパークなどの活動とあわせて密接な連絡体制を作っているなかで、今回の噴火を迎えた。警戒レベル導入と直接関係はないが、牛を移動させたり、ロードスイーパーを貸し出すなどしたりの連携は迅速だった。それは、自治体側の不断の努力が実ったと言うことだ」とジオパークに言及した。

日本ジオパークネットワーク：日本ジオパーク委員会が認定した日本ジオパークを正会員とし、それを目指す地域を準会員とする地域間ネットワーク。ジオパークの普及・広報・推進を図る。

http://web.mac.com/japan_geoparks/JGN/top.html

日本ジオパーク委員会：世界ジオパークネットワークが認める日本におけるジオパークの審査機関。日本火山学会、日本第四紀学会、日本地質学会、日本地震学会、日本地理学会からの委員を含む、学識経験者・専門家11名の委員で構成、産総研地質調査総合センターが事務局。この委員会が日本から世界ジオパークネットワークに申請する地域の推薦を行い、日本ジオパークの認定を行う。申請書に基づく書類審査、今回連合大会で行うプレゼンテーションと質疑応答、現地調査に基づき、秋に最終的な推薦・認定の可否を決定する。

<http://www.gsj.jp/jgc/indexJ.html>

【これまでの経緯】

世界ジオパークネットワーク（GGN）設立まで

- ・ユネスコ執行委員会（2001年6月）ジオパークを推進する各国の努力を支援することを決定。

- ・ 2004 年にユネスコの支援により世界ジオパークネットワーク (GGN) を設立。

学会などを中心とした初期の活動

- ・ 2004 年 9 月地質学会でジオパークに関する最初の集会
- ・ 2005 年に地質学会ジオパーク設立推進委員会設立。広報・普及、地域への情報提供などを行う。
- ・ 2005 年-2006 年に NPO 法人地質情報整備・活用機構がジオパークに関するシンポジウムを 3 回開催。地方自治体、中央省庁からも参加者。
- ・ 2007 年には地球惑星科学連合大会、第四紀学会、地質学会でシンポジウムなどを実施。連合大会の様子を伝える朝日新聞科学面の記事をきっかけに、各地の地方紙に記事多数掲載。

日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会設立から現在まで

- ・ 2007 年 12 月糸魚川市長が呼びかけて日本ジオパーク連絡協議会設立(13 地域)。
- ・ 2008 年 2 月ジオパーク関連省庁による協議。日本ジオパーク委員会が世界ジオパークネットワークへの申請にあたって審査を行い、日本ジオパークネットワーク加盟を認定する、という枠組みを確認。
- ・ 2008 年 5 月 日本ジオパーク委員会発足、第1回委員会開催
- ・ 2008 年 10 月 第 3 回日本ジオパーク委員会において、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の三地域を最初の日本からの世界ジオパーク申請候補に決定。
- ・ 2008 年 12 月 第 4 回日本ジオパーク委員会において、アポイ岳、南アルプス、山陰海岸、室戸の 4 地域を、上記世界ジオパーク候補 3 地域と合わせて日本ジオパークに認定。
- ・ 2009 年 2 月 日本ジオパーク記念式典。7 地域に認定証を JGC から渡す。日本ジオパークネットワーク (JGN) 設立宣言
- ・ 2009 年 5 月 JGN 設立総会 (正会員 7 地域、準会員 6 地域、オブザーバ 7 地域)
- ・ 2009 年 8 月 世界ジオパークネットワークが洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の三地域の同ネットワーク加盟を決定、23 日に正式発表
- ・ 2010 年 10 月 山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワーク加盟

参加費無料セッションの開催希望について

理事会資料 2011年10月7日

プログラム局 中本泰史

(1) 9月13日付 祖父江先生からの連絡

お世話になります。
JAXA祖父江といいます。

下記のとおり、次のJPGUでユニオンセッション（パブリックセッション）を提案させていただいておるものですが、セッションとしては発表を5件ではなく15件くらい考えたいと思っているので、提案の修正をそのようにさせていただきます。

その上で、パブリックセッションとさせていただくにあたり、以前、JAXAの他のユニオンセッション開催にあたっては、会場費の負担をしたケースもあったと思います。今回の提案に対しても、会場費の負担についても検討したいと思っております。

経費の支払いの実例がどのようなものがこれまでにあり、いくらくらい負担しておったケースがあるかをご教授いただけないでしょうか？

ちなみに、できましたら、今年度中の予算で支払いも考えたいと思っております。

よろしくお願ひします。

祖父江
===

■セッション提案 [提案番号]003

[セッション提案情報]

1. タイトル和文：新たな宇宙からの地球観測ミッションの創出
2. タイトル英文：Toward to develop the new earth observation mission from space
3. タイトル短縮名和文：新規ミッション創出
4. タイトル短縮名英文：New EO mission development
5. 代表コンピーナ：提案者
6. 共同コンピーナ：
共同コンピーナ1.
登録ID：018061
氏名(フルネーム・和文)：沖 理子
氏名(フルネーム・英文)：Riko Oki
所属(和文)：宇宙航空研究開発機構
所属(英文)：Japan Aerospace Exploration Agency
メールアドレス：oki.riko@jaxa.jp
7. 提案母体：個人
8. 希望セッションカテゴリー：大気海洋・環境科学(A)
9. ユニオンセッション・パブリックセッション開催希望：パブリックセッションとしての開催を希望する
10. 国際セッション開催希望：国際セッションとしての開催を希望しない
11. 発表主要言語：日本語
12. スコープ和文：2020年以降を中心とした地球観測衛星ミッションに関する陸域、海域、大気分野での新規のミッションに関するアイデアを共有するとともに、日本として実施すべき地球観測衛星ミッションについて科学的な見地から議論を行う場を提供する。
13. スコープ英文：While sharing the idea about the new Earth observationmissions in the land, ocean and air discipline, it has a discussion to develop the Japanese earth observation satellite mission requirementsafter 2020.
14. 発表方法希望：口頭および（または）ポスターセッション
15. 発表見込数：口頭 5 件 ポスター 0 件
16. 希望部屋サイズ：110人
17. 過去の開催実績：なし
18. セッション提案特記・希望事項：地球科学研究者のできるだけ広い参加を得て、将来のミッション議論をJAXAとの間で行う場としたい。このため、他の大気海洋・環境科学(A) セッションとできるだけ競合しないスケジュールがありがたいです。
19. 発表方法に関する希望：プロジェクターを用いてスクリーンで投影する形をとる。

(2)パブリックでの希望の経緯

祖父江先生のセッションだけに参加したいという研究者、学生も広く集めて将来の地球観測ミッションの議論をしたいという趣旨で、パブリックセッション（参加費無料）という形で希望

(3) セッション開催希望条件

対象者	研究者及び大学生(一般向けではない)
会場規模	100-200人
参加費	参加者の参加費が無料になるなら会場費の負担はかまわない
開催時間	4時間程度
開催日	会期中あるいは土曜日

(4) プログラム局の意見

- ・パブリックセッションとしての採択は難しいだろう
- ・内容を見ると、ユニオンセッションとしての採択はあるかも知れない。
しかし、参加者の参加費を無料にするような制度はないので、今のままでは 実施不可能。
- ・制度を変更しないまま実施する方法としては、次のような案があり得る。

案[1] 連合大会とは独立の別の会議として開催

(たまたま隣で開催していた、という形)

場所と時間は、次の組み合わせのいずれか

- (1) 場所：展示ホール7付随の会議室など、連合大会周辺の会場
時間：任意の日時
- (2) 場所：国際会議場(連合大会の口頭セッション会場)内のいずれかの会議室
時間：土曜日 (5/19 or 5/26)

主催は、JAXA(?)

運営は、主催者が取り仕切り、会場確保(幕張メッセとの交渉)や会場費の支払いも、主催者が行う。
連合は、共催もしくは後援という形で参加することはあり得る(理事会の判断)。
会場確保や会場案内など、できる範囲で運営のサポートをすることもあり得る
連合大会の枠内の正式イベントではない、連合大会プログラムにも載らない。

案[2] 連合大会の枠内の「会合」として開催

場所と時間は、次の組み合わせのいずれか

- (1) 場所：展示ホール7付随の会議室など、連合大会周辺の会場
時間：任意の日時
- (2) 場所：国際会議場内のいずれかの会議室
時間：会期中の17時以降 (連合大会の口頭セッションが終了したあと)、または土曜日 (5/19 or 5/26)

無料参加者は、17時以降、入場可(具体的にはもう少し詰める)

料金は、会議室利用料 + 無料参加者の参加費相当額(土曜日開催なら不要)

連合大会枠内のイベントなので、連合大会のプログラムに会合名が載る

(5) 理事会で決めていただきたいこと

5-1 対応:

次のうちどれを採るべきか？ (1) 上記案[1], (2) 上記案[2], (3) 参加費無料は受け入れない = 通常のルール通りに扱い、特別扱いはしない, (4) 制度を変更・創設(ユニオンや通常セッションでも、外部からの資金によって参加者の参加費を無料とする制度)

5-2 今後の方針:

今後このようなセッション(会合?)を積極的に受け入れていくべきなのか、今回の申し出をイレギュラーなものとして処理し、あまり歓迎はしない方向なのかの経営方針

商標登録について

(定義等)

第二条 この法律で「商標」とは、文字、図形、記号若しくは立体的形状若しくはこれらの結合又はこれらと色彩との結合（以下「標章」という。）であつて、次に掲げるものをいう。

- 一 業として商品を生産し、証明し、又は譲渡する者がその商品について使用をするもの
- 二 業として役務を提供し、又は証明する者がその役務について使用をするもの（前号に掲げるものを除く。）

・商標登録の必要性

JPGU (JpGU) の使用の継続のため、他者との混同を回避するため
(※大文字と小文字の区別はなし)

・商標登録にかかる費用

特許庁に支払う印紙代

- 出願時の基本特許印紙代：3,600 円
- 出願時の区分毎の印紙代：8,400 円
- 5年分の特許印紙代（一区分当たり）：21,900 円
- 10年分の特許印紙代（一区分当たり）：37,600 円

出願代理手数料（特許事務所に依頼した場合の費用）
調査費，出願手数料，成功報酬等で15万円前後
国際出願をする場合には更に手数料が発生する

・区分について

区分：商品やサービスの分類
JpGUの場合，基本的には41類での出願が考えられる
(※弁理士と要相談)

・期間について

申請～認定まで半年前後必要

・図形について

文字列のみと文字列＋図形は別出願となる

- 文字列＋図形のみで申請した場合は，他者の図形のみ，文字列のみの使用に対して効力がない
- 文字列のみの申請についても，他者の文字列＋図形の使用に対して効力がない
- 図形の申請をする場合は，類似が多数ある可能性があり，また調査に時間と費用がかかる可能性がある
(※弁理士と要相談)

ケース1：日本地形学連合

- (111) 【登録番号】 第2718755号
- (151) 【登録日】 平成8年（1996）12月25日
- (260) 【公告番号】 平7-133612
- (442) 【公告日】 平成7年（1995）12月15日
- (210) 【出願番号】 商願平2-50200
- (220) 【出願日】 平成2年（1990）5月2日
 - 【先願権発生日】 平成2年（1990）5月2日
 - 【更新申請日】 平成18年（2006）12月13日
- (156) 【更新登録日】 平成18年（2006）12月19日
- (180) 【存続期間満了日】 平成28年（2016）12月25日
 - 【拒絶査定発送日】 平成4年（1992）4月24日



日本地形学連合
JAPANESE GEOMORPHOLOGICAL UNION

【商標（検索用）】 JGU∞日本地形学連合\ JAPANESE GEOMORPHOLOGICAL

AL UNION

(541) 【標準文字商標】

(561) 【称呼】 ジェイジユウ, ニッポンチケイガクレンゴウ, ジャパニーズジオモルフオロジカルユニオン

(531) 【ウィーン図形分類】 26.1.1; 26.1.3; 26.1.12; 26.11.3; 26.11.12

(732) 【権利者】

【氏名又は名称】 鈴木 隆介

【住所又は居所】 東京都国分寺市富士本1丁目26番地25

【付加情報】

(641) 【重複番号】

【審判番号】 平4-10288

【審判種別】 査定不服審判

【審判請求日】 平成4年(1992)5月25日

【書換登録申請番号】 書換2006-523714

【書換登録日】 平成19年(2007)4月11日

【旧類】 26

【類似群】 26A01 26B01 26C01 26D01

【国際分類版表示】 第8版

(500) 【区分数】 5

(511) (512) 【商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務】

6 金属製彫刻 16 印刷物, 書画, 写真, 写真立て

9 映写フィルム, スライドフィルム, スライドフィルム用マウント, 録画済みビデオディスク及びビデオテープ

19 石製彫刻, コンクリート製彫刻, 大理石製彫刻 20 額縁, 石こう製彫刻, プラスチック製彫刻, 木製彫刻

ケース2: 日本EUC学会

(111) 【登録番号】 第5358304号

(151) 【登録日】 平成22年(2010)10月1日

(210) 【出願番号】 商願2010-36471

(220) 【出願日】 平成22年(2010)5月11日

【先願権発生日】 平成22年(2010)5月11日

【商標(検索用)】 JSEUC∞日本EUC学会\Japan Society for End User Computing

(541) 【標準文字商標】

(561) 【称呼】 ジェイエスイユウシイ, ニッポンイユウシイガツカイ, ニッポンイユウシイ, イユウシイガツカイ, イユウシイ, ジャパンソサエティーフォーエンドユーザーコンピューティング, ソサエティーフォーエンドユーザーコンピューティング, エンドユーザーコンピューティング

(531) 【ウィーン図形分類】 26.2.5; 26.7.25; 27.5.1.3; 27.5.5; 27.5.21

(732) 【権利者】

【氏名又は名称】 若宮 俊司

【類似群】 41A01 41A03 41C02 41C03 41D01 41M06

【国際分類版表示】 第9版

(500) 【区分数】 1

(511) (512) 【商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務】

41 知識の教授, 学会・セミナー・シンポジウム・講習会・研修会・討論会の企画・運営又は開催若しくはこれらに関する情報の提供, 電子出版物の提供, 図書及び記録の供覧, 美術品の展示, 書籍の制作, レコード又は録音済み磁気テープの貸与, 録画済み磁気テープの貸与



各社対応と見積もり

Q. 当団体の商標登録の必要性についてどう思うか？	
A 社	<p>必要がございます。基本的に事業を行う場合には商標権が必要ですが、ご説明頂いた業務内容の場合、商標権が必要な事業に該当します。</p>
B 社	<p>全ての学会が取得されているわけではありませんでしたが、特許庁には、「日本水産学会」、「応用物理学会」等が商標登録されていました。</p> <p>「〇〇学会」や「一般社団法人〇〇学会」という、法人名そのものは、他人に登録される恐れはありませんが、類似の名称については他人に登録される恐れがあります。アルファベットの略称については、有名でない限り登録されてしまう恐れがあります。また、他人の商標権を取り消すことは、かなり手間がかかります。</p> <p>他人が不正に名称を使用した場合には、商標権がない場合は不正競争防止法に基づき使用の中止を求めますが、法人名等が有名であることを立証する必要があり、証拠集めが大変です。商標権を持っている場合には、通常は証拠集め等を行う必要はなく、相手への使用中止を求めることが容易となります。</p> <p>つまり、第三者のことを考えると、登録して保護しておいたほうが、最終的なコストや手間は少ないということになるかと思います。</p>
C 社	<p>商標は、商品や役務(サービス)の提供元を表すネーミングやマークです。商標登録をするメリットは、その商標を指定商品・役務(サービス)について使用することを独占できることです。つまり、他人がその商標と同一・類似の商標を、指定商品・役務(サービス)と同一・類似の商品・役務(サービス)について使用することを中止させることができ、他人との差別化に非常に役立ちます。また、他人の商標権を侵害してしまうという事態を防ぎ、安心してその商標を使用することができます。さらに、その商標を他人に使用許諾する際の法的根拠となります。</p> <p>商標を使用して商品やサービスを提供される場合には、商標登録をする意義があります。</p>
D 社	<p>商標登録の対象となります。</p>

Q. 名称について、日・英・略語の3区分での出願が必要か？ その場合、3倍の料金がかかるのか？	
A 社	<p>すべてを出願する必要が無い場合もあります。より、低コストできちんとした権利範囲を確保できる案を提案させていただきます。</p>
B 社	<p>全てを登録しないといけないということはありません。必要に応じて、どれかを登録されれば良いのではないのでしょうか。全てを出す場合は、3件出願することとなりますので、3件分の費用が必要となります。</p>
C 社	<p>実際に使用する商標が保護されることが重要ですので、使用する商標それぞれについて出願しておくことが望ましいと思われます。ただし、ひらがなとアルファベットの違いなど、読み方が同じ商標であれば、どちらか一方を登録しておけば、第三者が使用・登録することを排除することができる可能性があります。</p>

D 社	3つを別々に登録することは可能です。 ただし、費用等の面を考えれば、そこまでは必要ないかと思います。 少なくとも、日本語名、アルファベット名は1つの出願で済む可能性があり、さらに略称も同時にできる可能性はありますが、 実際には具体的に名称をお伺いしたうえで検討する必要があります。
Q. ロゴについて、名称のみ・名称+ロゴ・ロゴの3区分での出願が必要か？ その場合、3倍の料金がかかるのか？	
A 社	出願料と登録料も3倍になります。ただし、質問2で回答しました通り、 出願件数を抑えることが出来る場合がありますので、こちらも提案させて頂くことが可能です。
B 社	「名称」と「ロゴ」を登録されれば、「名称+ロゴ」は出願されなくてよろしいかと思います。 「名称」と「ロゴ」ですと、2件出願することとなり、2件分の費用が必要となります。
C 社	費用は商標ごとにかかりますので、3つの商標を出願する場合は、 1件あたりの費用の3倍の費用がかかります。
D 社	ロゴを拝見しないと何ともお答えの使用がありません。 なお3件の商標を別々に出願する場合に、当事務所の手数料は割引いたしますので、 単純に3倍にまではなりません。

Q. 登録区分の目安は？何類に出願するべきか？	
A 社	16類と41類の2区分 16類は「印刷物」を含むため指定しましたが、41類の「電子出版物の提供」で 代替すると考えれば、41類の1区分のみでも可能です。
B 社	第9類「電子出版物」 第16類「書籍、雑誌」 第41類「セミナーの開催」
C 社	お知らせ頂きました内容を検討致しましたところ、 下記の区分が該当する可能性があります。 ・第9類「電子出版物」 ・第16類「印刷物」 ・第41類「学会及びセミナーの運営又は開催」 以下、ご参考までに、商標1件を1区分(例:第41類)で お申込み頂く場合について、手続きにかかる費用をご案内致します。
D 社	具体的には第41類という区分になります。 第41類以外では、雑誌の題号に使用される場合に第16類:印刷物ということになります。 予防的な登録ということでもあり、第41類の1区分だけでよろしいかと存じます。

見積もりについて ※1区分のみの出願	
A 社	約 13 万円

B 社	約 12 万円
C 社	85700 円
D 社	約 15 万円